

A hand holding a book in a library setting, with a blue monochromatic filter.

SHIMANE UNIVERSITY LIBRARY Annual Report 2013

島根大学学術情報機構
附属図書館年報

幸福な「浮遊感」

ある時期に、「宇宙船地球号」という言葉がさかんに用いられた。地球を閉鎖的な運命共同体として意識させるねらいでしたが、私には文字どおりの宇宙船としてのイメージが先行し、自転しながら太陽を巡る軌道を驚くべき速度でばく進する地球の姿を思い浮かべながら、ある種の「浮遊感」に身をゆだねたことでした。

「浮遊感」は不安の一つの現れですが、反対に、喜びに満ちた「浮遊感」もあります。新たな知識の世界に出会って、そこに足を踏み入れるときのことです。

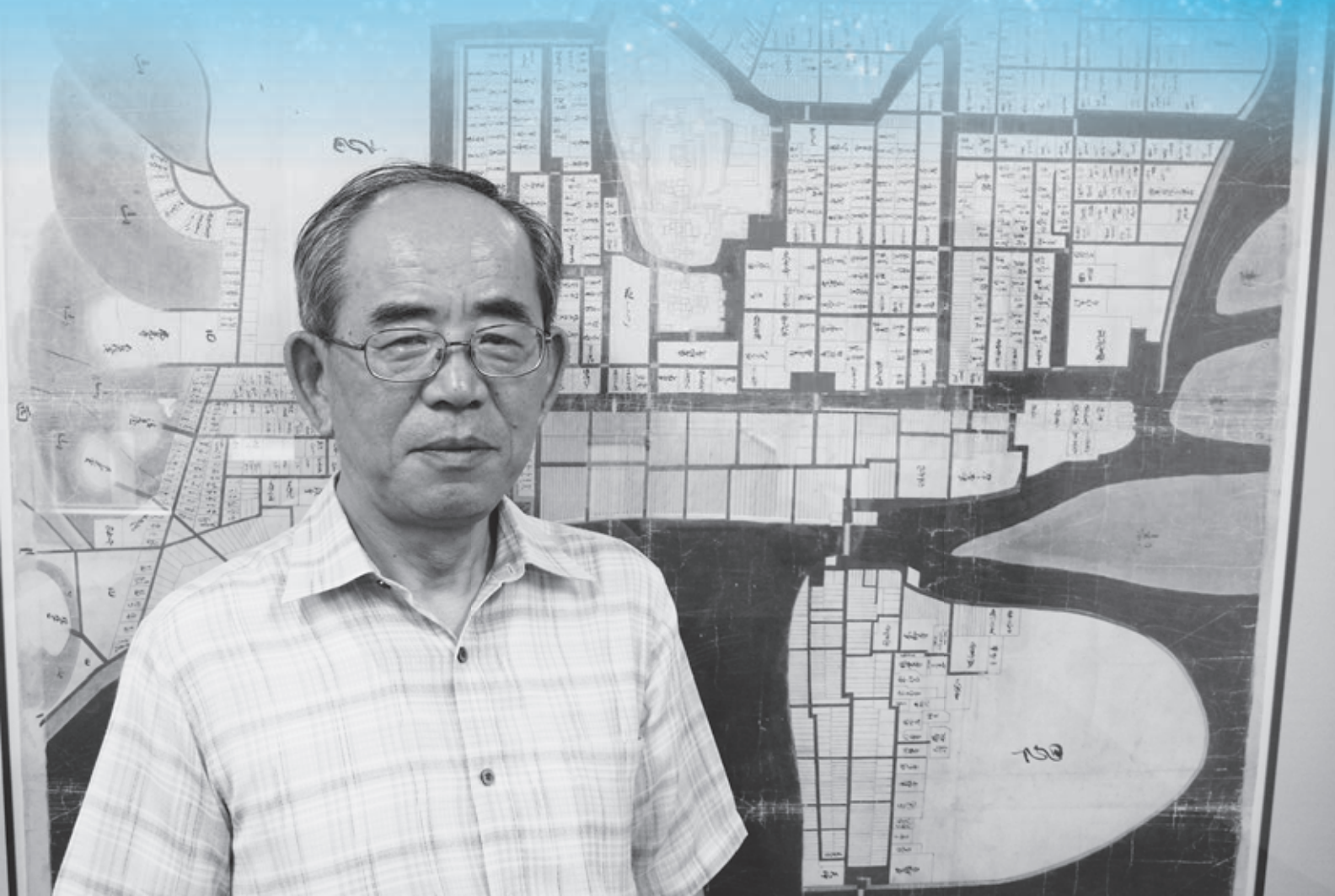
自分の貧しい知識や能力のことは忘れて、ただ眼前に広がる知識の豊かさにだけ目を向けて歩みをすすめるとき、確かにこの「浮遊感」に包まれているのを感じます。学んだ知識が何の役に立つのか、将来の就職に有利かどうかなどはどうでもよい。ひたすら学び、学ぶための労苦ですら楽しく思えるような経験、それに出会った人は幸せです。

附属図書館が、利用者の皆さんにとって、そうした経験を得るきっかけとなるならば、何より嬉しいことです。

関係者の協力による本館の改修を終えて一年がたちました。来館者の増加があることからすれば、本館の新たな出発は概ね良好といえるでしょう。新設したラーニングcommonsも、しだいに活発に利用されるようになり、新たな学修形態への試みとして徐々に定着し始めています。

附属図書館が事務局を勤めてきた「遺跡資料リポジトリ」プロジェクトの活動に対して、国立大学図書館協会から平成26年度の協会賞が授与されました。地方の小さな大学から始めた事業が、今や全国規模の展開をみていることが評価された結果です。長く協力を得てきた国立大学や自治体の皆さんに感謝するとともに、研究支援施設としての附属図書館の使命を、改めて自覚した次第です。

附属図書館長 田 籠 博



島根大学学術情報機構 附属図書館の理念と目標

平成25年8月2日学術情報機構附属図書館運営会議承認

理念

島根大学は、社会の発展と進歩に貢献するため、豊かな人間性と専門性を身につけた人材の養成を使命とし、創造性ある研究の促進や地域連携を推進しています。（「島根大学憲章」より）

附属図書館は、島根大学における学修、教育、研究を支援するための基盤施設として学術情報の収集、提供に努め、また、地域や国際社会との連携をすすめ、地域に根ざし、社会に貢献できる図書館を目指します。

目標

1. 学修・教育支援のための資料と環境の整備

学生の学修を支援するため、充実した資料と学修環境を整備し、人格を育む教育を目指して、学内の教育研究プログラムと連携した教育支援を行います。

2. 研究支援のための学術情報整備

多様な分野の特色ある高度な研究を支援するため、国内外の学術情報の収集整備に努め、これらを効率的に利用できる電子図書館機能を充実します。

3. 地域の学術情報拠点としての連携協力

地域の特性と大学の特色を生かした企画、運営をすすめ、地域の学術情報拠点として、資料提供、連携企画、情報発信等を積極的に行います。

4. 学術コミュニケーションへの貢献

大学の研究成果や貴重資料を世界に向けて発信し、学術コミュニケーション活動に貢献します。

Contents

Topics	4
図書館の動向	
・学術情報基盤整備	8
・学修支援/社会貢献	9
・図書館コンシェルジュ	10
・研究開発室の活動状況	12
・遺跡資料リポジトリ	14
統計	15
・利用者	16
・貸出	17
・図書	18
・図書館資料費	19
・雑誌	20
・電子ジャーナル	21
・Webサービス	22
・相互協力	24
・講習会	25
図書館日誌/刊行物	26
新聞・テレビ等の報道/人事異動	27

■本館リニューアル・オープン

8か月間にわたった耐震・機能改修工事が完了し、2013（平成25）年4月4日にリニューアル・オープンした。

オープン当日の10時から開催されたオープン記念式典では、島根県立図書館長と歴代館長を来賓に迎え、学内の関係者が出席して盛大に執り行われた。小林学長、田籠館長の挨拶に続き、大矢敬子島根県立図書館長による来賓挨拶があり、続いて、竹内学術国際担当理事、辻大学経営・財務担当理事と学生代表として図書館コンシェルジュの富室崇志さんを加えてのテープカット式が行われた。

式典後に行われた施設見学では、職員の案内によりアクティブラーニングにも対応できるラーニングcommonsやグループ学習室、様々なタイプの閲覧席を備えた閲覧スペース、閲覧室内に新たに導入した電動集密書架などを見学した。

【2013年4月】



■オープニング展示

本館のリニューアル・オープンを記念して、1階展示室で記念展示会を開催した。展示会は、島根大学が2013（平成25）年3月3日に東京有楽町で開催した「古代出雲文化フォーラム—神話・青銅器・たたら—」の様子をより広く学内外の皆



様に知ってもらう趣旨で開催したもので、次のようなフォーラムの講演内容に関連したパネル

と附属図書館所蔵の貴重資料や関連書籍を展示した。

日時：2013（平成25）年4月4日（木）～6月28日（金）

場所：島根大学附属図書館 1階展示室

内容：(1)「古代出雲の世界」大日方 克己

(2)「出雲の青銅器文化」松本 岩雄

(3)「出雲の四隅突出型墳丘墓」會下 和弘

(4)「古代出雲の鉄文化」角田 徳幸

(5)「現代に生きるたたらと日本刀の科学」

八十 致雄

【2013年4月】

■島根県図書館協会設立

2013（平成25）年6月14日、島根県図書館協会が設立された。これまで県内には、館種を越えて組織されたものとしては、島根地域図書館連絡会（1998（平成10）年度設立）があったが、任意加入のため加盟館は一部の図書館に限られていた。2012（平成24）年10月に松江で開催された第98回全国図書館大会島根大会を契機として、県内の館種を越えた図書館を横断的に取りまとめる組織の設立を望む声が大きくなり、設立につながったものである。

協会は、島根県読書推進運動協議会が母体となり、島根地域図書館連絡会を発展的に改組する形で設立された。設立時

の構成団体は、島根県公共図書館協議会、島根県大学・高等専門学校図書館協議会、島根県高等学校図書館研究会、島根県学校図書館協議会、島根県書店商業組合など9団体である。

協会の設立記念講演会として、次の講演会が浜田市と松江市で開催された。

鎌倉幸子氏

「図書館は国境をこえる—カンボジアから東日本へ—」

2013（平成25）年12月3日 浜田教育センター

2013（平成25）年12月4日 島根県松江合同庁舎

【2013年6月】

■企画展示「小泉八雲のKWAIDAN—怪談—展」

本館ではこれまでもラフカディオ・ハーン（小泉八雲）に関する企画展示を開催してきたが、「教育者」あるいは「新聞記者」など、ハーン自身をテーマにした内容であった。こ



の展示会では、ハーンの代表作品である「怪談」を取り上げ、小泉八雲記念館、NPO法人松江ツーリズム研究会の協力を得て、ギリシャ出身のタキス・エフスタシウ氏のコレクションである世界各国の翻訳本や、各国で作成されたポスター、スチール写真など貴重な資料を展示した。

怪談といえば日本の夏の風物詩である。会場内は間接照明を用い、入口にろくろ首のオブジェや竹、破れ傘を飾るなど、怪談らしい雰囲気も楽しんでもらった。期間中は約500名の来場者があった。

日時：2013（平成25）年7月8日（月）～10月31日（木）

場所：島根大学附属図書館本館 1階展示室

【2013年7月】

■西東文庫パネル展示

出雲キャンパス図書館棟2階廊下（医学図書館入口前）にて、西東文庫に関するパネルを展示した。



西東文庫（せいとうぶんこ）とは、Westernization of Japan “江戸から東京へ：西洋から見た日本の近代化”をテーマに蒐集された全827冊からなるコレクションである。大部分が1800年代後半から1900年代前半に出版された洋書で、旧島根医科大学時代の1988（昭和63）年度に大型コレクションとして購入された。文庫名はゲーテの西東詩集『West-östlicher Divan』に因んで命名した。

様々な分野の初版本を数多く擁する資料価値の高いコレクションであることに加えて、絵や版画、古写真等がふんだんに盛り込まれた美本が多いことが特徴で、当時の著名な作家やお雇い外国人等が執筆にあたっており、欧米が東洋に熱いまなざしを向けていた当時の様子がうかがわれる。今回の展示はこの熱を感じられるよう挿絵を多く配し、西東文庫の紹介を行った。【2013年8月】

■目録システム講習会（雑誌コース）を開催

2013（平成25）年8月28日（水）から30日（金）にかけて、島根大学（図書館2階PCルーム）を会場に、「平成25年度目録システム講習会（雑誌コース）」を開催した。この講習会は、全国の大学図書館等が共同で構築している総合目録データベース（NACSIS-CAT）について、その構成、内容、データ登録等に関する知識・技能の習得を目的として、全国で開催されているもので、中国・四国地区では地区内の国立大学が毎年持ち回りで開催しているものである。

総合目録データベース（NACSIS-CAT）は、図書館が提供しているOPACやILL（図書館間相互貸借）といったサービスの基盤となっており、大学図書館の運営において欠かせないシステムである。講習会には、西日本各地より30名の参加があり、3日間にわたり講義や演習を通して、総合目録データベースを使った雑誌データの検索と登録・修正・削除の方法

や目録規則等を学んだ。島根大学のほか、徳島大学、鳥取大学、広島大学の各図書館の職員が講師を担当し、無事3日間の日程を終えた。【2013年8月】



■中学生職場体験

附属図書館では、中学生に大学図書館のサービスと業務を知ってもらうことを目的として、毎年、職場体験を受け入れている。2013（平成25）年度は、本館、医学図書館それぞれ次のように受け入れを行った。

本館では2013（平成25）年10月1日、2日に松江市立湖南中学校より職場体験の生徒2名を受け入れた。取り組んでもらった作業は、図書の返却作業、書架や閲覧機の掃除、図書の修理等である。ちょうど後期が始まったばかりで多数の

返却本があったため、職員にとってはとても有り難い助っ人となった。

医学図書館では同年10月2日、3日に出雲市立第二中学校より職場体験の生徒2名を受け入れ、本館と同様の作業に取り組んでもらった。2名とも図書委員の経験があり、作業をよく理解し、利用者への気遣いをみせながら取り組んでいた。

職場体験の終了後には、生徒たちから図書館職員に対して、毎年感謝の手紙が届けられている。【2013年10月】



■怪談展ギャラリートーク

第2回資料探訪セミナーとして、企画展示「小泉八雲のKWAIDAN—怪談—展」の最後を締めくくるとしてギャラリートークを開催した。八雲会常任理事で、八雲作品を通じて様々なイベントを手掛けている小泉祥子氏によるトークと展示資料の解説の後、図書館職員による朗読劇や映画鑑賞を行った。

小泉氏による八雲自身やコレクションに関するトークは初めての人にもわかりやすく、八雲をいっそう身近に感じることができた。また、情報サービスグループの職員による朗



読劇「むじな」は、照明やBGMの効果もあってか、「目をつむると怪談らしくて良かった」との感想をいただいた。参加者は、書籍、写真、映像、音声などを通して一時の怪談を楽しんだ。

このギャラリートークは、今回のような「ちょっとしたイベント」にラーニングcommonsを利用できるというPRの機会にもなった。いつもは明るいラーニングcommonsは、怪しくも楽しい雰囲気にも包まれた。

日時：2013（平成25）年10月30日（水）

14：00～15：30

場所：島根大学附属図書館本館 1階展示室、
ラーニングcommons

内容：(1) ギャラリートーク

(2) 「怪談展」のコレクション紹介

(3) 八雲作品の朗読劇「むじな」

(4) 映画鑑賞「怪談」（小林正樹監督 1964年）より

【2013年10月】

■「島根大学探訪～図書館での『学び』と『協働』を考える～」を開催

2013（平成25）年11月23日（土）に、本館において大学図書館問題研究会京都支部ワンディセミナーin島根「島根大学探訪～図書館での『学び』と『協働』を考える～」が、島根大学附属図書館、および島根県大学・高等専門学校図書館協議会との共催で開催された。

まず、本学教育開発センター長の森朋子准教授から「学びをデザインする—社会的構成主義の学習観における図書館の役割—」と題した講演が行われた。講演では、「学びをデザインするのは教員だけの仕事ではなく、さまざまな学習理論を活用して図書館員がデザインしてほしい」とお話をいただいた。

後半は、図書館の協働に関する事例報告として、島根大学附属図書館、島根県立大学短期大学部松江キャンパス図書館の職員より報告があった。

最後に、会場を1階ラーニングcommonsに移し、全体でディスカッションを行った。フロアからはもちろん、報告者からも双方向に活発な質疑応答が繰り返され、参加者からは大変好評だった。

【2013年11月】



■企画展示「堀尾・京極・松平—松江城下・今昔」



松江城が完成したのは慶長16（1611）年のことであるが、その後、松江藩は城主となった堀尾氏、京極氏、松平氏によって治められてきた。松江は、当時の町割りほぼそのまま残る歴史情緒あふれる町である。この展示会では、それぞれの時代に描かれた3枚の城下町絵図をもとに、城下町松江の誕生と移り変わりを紹介した。

「堀尾期松江城下町絵図」は本館の古地図コレクションの中心となるもので、「松平期松江城下町絵図」は桑原文庫に含ま

れる貴重な絵図である。京極期の絵図は「寛永年間松江城家敷町之図」と呼ばれ、京極氏にゆかりの深い丸亀市立資料館に所蔵されている。

関ヶ原の戦いにおいて功績のあった堀尾氏は、出雲国を与えられ、実戦を想定した合理的な構造の城と城下町を造成した。続く京極氏は城下町の整備を計画するも一代限りで没した。十代続いた松平氏は、藩政改革、殖産興業で地域に根ざした産業を興し、窮乏期を乗り越えた。近代の戦火をも逃れて昔のたたずまいを今に伝える松江の歴史を再認識する展示会となった。

日時：2013（平成25）年11月26日（火）～

2014（平成26）年2月14日（金）

場所：島根大学附属図書館本館 1階展示室

【2013年11月】

■ビブリオトーク&ビブリオバトル

各地の大学図書館で開催されるようになったビブリオトークとビブリオバトルが、本館で学生の主催により開催された。

学生サークル島大Spirits!によりプレイベントとして開催されたビブリオトークは、1回目は4名、2回目は5名の発表者があり、ラーニング commonsのほぼ半分の席が埋まった。緊張して思うように言葉が出てこない場面もあったが、発表者全員に温かい拍手が送られ、発表後のディスカッションも、ビブリオトークならではの和やかな雰囲気の中で行われた。

ビブリオバトルは、図書館コンシェルジュ企画として開催された。「マンガ好き・ライトノベル好き」限定で、学外からの参加者3名を含めた4名が発表した。ラーニング commons

を有効に活用したイベントとして、今後も定期的な開催が予定されている。

■第1回ビブリオトーク

2013(平成25)年12月19日(木) ラーニング commons

■第2回ビブリオトーク

2014(平成26)年1月23日(木) ラーニング commons

■ビブリオバトル

2014(平成26)年2月11日(火) ラーニング commons

【2013年12月】



■ひとたなボックス



学習に役立つ図書を気軽に推薦してもらおうコーナーを、本館カウンター横に設けた。これまでにない発想で、1つのテーマにつき1棚(図書5~6冊)を使って展示するため「ひとたなボックス」と名付けた。

学習用図書の推薦コーナーとしては初年次・授業関連図書コーナーがあるが、敷居が高く、いつでも誰でもというわけにはいかなかった。新コーナーは学生、教職員なら誰でも参加でき、読書体験、学習体験を通して役に立った本、読んでほしい本を気軽に紹介してもらい、図書への関心を高めてもらうことを目的としている。使用されている棚は14棚で、様々な分野のバラエティに富んだ内容の本が並んでおり、3ヶ月半で80回の貸出があった。

【2013年12月】

■高等教育合同フォーラムで学生協働の取組みを発表

2014(平成26)年3月5日、島根大学教育・学生支援機構教育開発センター、山陰地区FD連絡協議会、山陰地域ソーシャルラーニングセンター主催による「高等教育合同フォーラムin山陰2014—地域発! 大学教育のイノベーション—」が松江テルサ1階を会場に開催され、図書館コンシェルジュからは図書館コンシェルジュの活動報告を、職員からは学生協働交流シンポジウムの報告を、それぞれポスター発表にて行った。このフォーラムでは、他部署や他大学の取り組みを知ることができ、有意義な機会となった。

【2014年3月】



■ 学術情報基盤整備 —電子ジャーナルの充実に向けて—

本学では2001（平成13）年度から開始した「学術情報基盤整備計画」により、全学的な観点にたって複数の専門分野をカバーする外国雑誌を中心とした電子ジャーナル及び文献データベース等の計画的な整備を行ってきた。全学共通経費を主な財源としたこの整備計画は3年ごとに見直しを行い、2013（平成25）年は「第5期学術情報基盤整備計画（平成25-27年）」によって、電子ジャーナル約12,000タイトルに加えて、引用文献データベース、アクセスツール及び文献管理ソフトを継続して整備した。

また、大学構外からも電子ジャーナル等を利用できる環境の充実を図るとともに、携帯機器を用いた利用の支援など、より一層の利便性向上に努めた。

なお、化学系、医学系、工学系など一部の専門分野固有の電子ジャーナルパッケージや個別タイトルについては、部局経費により契約し、利用に供している。

1. 第5期学術情報基盤整備計画（概要）

（1）対象とする電子ジャーナル

本整備計画が対象とする電子ジャーナルは、複数の専門分野をカバーするパッケージとして提供されるものとする。特に共通性が高く、重要と判断される個別タイトルについては、コア電子ジャーナルとして本計画の対象とする。

（2）バックファイル等電子資料の整備

年間契約する電子ジャーナルの対象範囲に含まれないバックファイルについても本計画の対象として整備を進める。利用できる電子ジャーナルが少ない人文社会科学分野を対象とする電子資料の整備についても留意する。

（3）利用環境の整備

電子ジャーナル等を迅速・効率的に活用するために必要なデータベース、アクセス・ツール及び文献管理ツールの整備を継続して進める。大学構外からも電子ジャーナル等を利用できる環境の充実を図るとともに、携帯機器を用いた利用の支援など、より一層の利便性向上に努める。

（4）導入経費等

本計画における電子資料の導入経費には、全学共通経費、部局経費及び間接経費等を充てる。また、出版社等との契約にあ

たっては、市場調査のほか、JUSTICE(大学図書館コンソーシアム連合)などの関係団体とも連携しながら価格交渉を行う。

2. 学術情報基盤整備をすすめる上での課題

電子ジャーナルは、論文数増大に伴う編集コストの上昇や大手学術出版社による寡占化の進行などによる恒常的な購読価格上昇により、いずれの大学においても購読を維持することに苦慮している。

この問題に対応するため、全国の国公立の大学図書館は2011年4月に大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）を結成して、出版社と価格交渉を進めている。また、SPARC Japan(※) や機関リポジトリ(※) などによる学術論文のオープン・アクセス運動も続けられているが、電子ジャーナルの価格問題の根本的な解決には至っていない。国内外の動向に注視しつつ、本学の研究・教育に必要な学術情報基盤を維持するために、大学全体で問題意識を共有し、購読経費を工夫していく必要がある。

※SPARC Japan・・・日本の学協会等が刊行する学術雑誌の電子ジャーナルを支援・強化することによって、海外に流出する我が国の優れた研究成果を我が国の研究者自身の手に取り戻し、海外への研究成果発信の一層の普及を推進することを目的として国立情報学研究所が実施している国際学術情報流通基盤整備事業

※機関リポジトリ・・・研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム

■ 第5期学術情報基盤整備計画で提供している電子ジャーナル・データベース等

2013(平成25)年

電子ジャーナル/データベース名称	概要
Elsevier SciVerge ScienceDirect	Elsevier社の雑誌 約2,200タイトル
Wiley Online Library	Wiley-Blackwell社の雑誌 約1,400タイトル
Springer LINK	Springer社の雑誌 約1,700タイトル
Cambridge Online Package	Cambridge Univ. Pressの雑誌 約300タイトル
Oxford Online Package	Oxford Univ. Pressの雑誌 約250タイトル
JSTOR : Art Sci. I, Health & General Sci.	学術雑誌バックナンバーのアーカイブ 約250タイトル
ProQuest Research Library, Health and Medical Complete	学術雑誌リソースおよびデータベース 約6,000タイトル
Nature & Research誌	Natureとその姉妹誌 合計5タイトル
PNAS	米国科学アカデミー紀要
Science	米国科学振興協会発行の学術雑誌
Cell	セル出版発行の学術雑誌
New England Journal of Medicine	マサチューセッツ内科学会発行の学術雑誌
Web of Knowledge(Web of Science + JCR)	引用索引データベースと雑誌のインパクトファクター
SFX (EJ管理ツール)	電子ジャーナルの管理およびリンクリゾルバ
360Search (横断検索DB)	学術情報データベースの横断検索ツール
RefWorks (文献情報管理ツール)	文献情報管理および論文作成支援ツール

※Web of Knowledgeの内、CCCは中止

■学修支援

附属図書館はカリキュラムやシラバスを意識した学修用資料の収集に努めるとともに、学修に必要な関連情報の整備を行っている。また、学生の情報活用能力を育成するための学術情報リテラシー講習会を開催し、教員にも積極的に働きかけて授業と連携した学術情報リテラシー教育を行っている。

1. 授業関連図書、学生用図書の整備・収集

シラバスに掲載された参考図書の整備を継続して行った。年度初めに学科、講座等から授業に必要な学生用図書を推薦してもらい、購入した。また、2013（平成25）年度は語学とスポーツ関連図書を重点的に整備した。語学資料については英語の多読用図書を中心に整備した。

■推薦図書購入実績

本館			医学図書館		
年度	購入冊数	金額(千円)	年度	購入冊数	金額(千円)
2009	655	2,680	2009	666	4,820
2010	658	2,560	2010	550	3,910
2011	780	2,850	2011	572	4,226
2012	767	2,804	2012	661	4,262
2013	750	2,782	2013	807	4,252

2. 授業関連図書コーナー

(1) 本館

「初年次教育・授業関連図書コーナー」は、授業と連携して図書館の活用を図ることを目的として2010（平成22）年度に設置したもので、主に初年次教育プログラムの授業科目に関連した必読書、推薦図書をパスファインダー（※）とともに置いている。2013（平成25）年度は図書館独自に「アカデミック・スキルズ」の棚を設け、「レポート・論文を書く」、「発表・プレゼンをする」、「大学での学び方」に関する図書をパスファインダーとともに提供した。

また、学習のための読書を推進することをねらった「ひとたなブックス」を授業関連図書コーナーの一角に新たに設けた。学生や教職員が、自ら設定したテーマに関連するお薦め図書を一棚（ひとたな）に集めて、ポップを付して展示している。

授業関連図書コーナーの貸出が前年度と比べて減少しているのは、この取り組みが4年目を迎えて、ややマンネリ化していることが影響していると考えられる。授業担当教員に働きかけるなどして、活性化を図る必要がある。

※パスファインダー・・・特定のテーマに関する文献の探索案内リーフレット

(2) 医学図書館

2010（平成22）年度から「看護学演習・実習コーナー」を設置し、看護実習に役立つ資料を整備してきたが、2013（平成25）年度は、重点整備図書として看護学科7分野から推薦を受け、97冊購入し、合計198冊となった。

9月末から3月までの間、附属病院での1日の実習を終えた学生は、図書館に来て必要な資料を閲覧したりコピーしたりと、夜間によく利用されていた。このコーナーの図書は館内利用のみとして、図書館にあればいつでも閲覧できるようにしている。利用状況を見つつ、一層の充実に取り組んでいきたい。

3. 学術情報リテラシー講習会

学術情報リテラシーの育成のために各種データベースの利用講習会を行っている。教員の申し込みに応じて授業の目的に合わせ、必要なデータベースを重点的にとりあげるオンデマンド講習会が定着してきた。授業での講習会は、多くの学生に一度に伝えることができるため、学術情報リテラシーの育成に大きな効果があると言える。

年々申込は増えているが、全ての学生が受講できるよう働きかけるとともに、内容の充実や担当者の育成など実施体制の整備も必要である。

このほか、中・上級者向けに外部より講師を招き、より高度で専門的な内容の講習会も開催した。

4. 図書館に関するアンケート

本館では、リニューアルオープン後の図書館利用の実態及び施設の満足度を調査するため、2014（平成26）年1月末に、アンケート調査を実施した。調査結果は、今後の学修支援を中心とする図書館サービスの改善や施設整備計画に反映させる予定である。

■社会貢献

附属図書館が所蔵する学術資料を県内の図書館に対して貸出を行う他、デジタルアーカイブによる貴重資料の提供や展示会への貸出などを通して、学術資料の提供を通じた社会貢献を継続して行っている。2013（平成25）年度は、他機関の各種展示会への貴重資料の貸出が多く、広く貢献した。

1. 物流システムによる相互貸借

（*県内図書館間の相互貸借統計（P.24）参照）

県内の大学・高専図書館や公共図書館と図書の相互貸借を実施している。前者は、島根県大学・高等専門学校図書館協議会の松江市内の物流ネットワークを主に活用したもので、後者は、島根県立図書館が運用する県内の物流ネットワークを活用したものである。

県内の各種図書館に対する本学からの貸出は年々増加傾向にある。改修工事に伴い資料を箱詰めしていた2012（平成24）年度は貸出冊数が激減したが、2013（平成25）年度は改修工

事前の水準にほぼ回復した。市町村立図書館への貸出が多く、本学が所蔵する学術資料の提供を通して地域貢献を果たしている。借受冊数も増加傾向にあり、附属図書館の蔵書構成の弱い部分を補完する機能を果たしている。

2. デジタルアーカイブによる資料提供

附属図書館研究開発室を中心として、デジタルアーカイブの構築を進めている。このシステムは学内外の各分野の歴史的・学術的な貴重資料、或いは地域史料などのデジタル画像をアーカイブし、アクセス制御機能のもとで学術研究・教

育利用及び調査活動等を支援するものである。覚書を取り交わして、地域の個人や機関が所蔵する史資料をデジタルアーカイブに登録・公開する点に特徴があり、地域史資料を公開するプラットフォームとしての機能を果たしている。

近年アクセス数は増加しており（デジタルアーカイブ統計（P.23）参照）、『堀尾期松江城下町絵図』『出雲風土記抄』（桑原文書）などのアクセスが特に多い（累計で1,100件超）。

本学が所蔵する史資料だけでなく、地域に所蔵される史資料の可視性を高めて、貴重資料として利用上の制限のある資料をデジタルアーカイブ上で教育や研究に自由に活用できるようにしている点は、本学の教育・研究だけでなく市民の生涯学習等に資することが大きいものと評価できる。

3. 貴重資料の貸出

デジタルアーカイブによって本学所蔵の貴重資料の可視性が高まったことにより、出版物等への掲載依頼や展示会への貸出依頼が近年増加している。以下は、2013（平成25）年度に展示のために貸出した資料である。

<本館>

- 「磯竹村大元神楽棧敷割図」文化12年（林家文書）
 - 「磯竹村大元神楽棧敷割図」天保4年（林家文書）
 - 「磯竹村大元神楽棧敷割図」天保10年（林家文書）
- 島根県立古代出雲歴史博物館企画展
（2013（平成25）年6月11日～9月30日）

「出雲石見魚漁図解」巻～四」

広島県立歴史民俗資料館特別企画展
（2013（平成25）年9月24日～12月6日）

「石見名所集方角図解」

「石見柿本社奉納和歌」

「遠島百首」「類題八雲集」「比那能歌語」（桑原文書）

島根県立図書館展示
（2013（平成25）年9月4日～10月4日）

「校友会雑誌」19号～21号

「暮しの手帖－花森安治特集」

松江歴史館企画展
（2013（平成25）年10月2日～11月5日）

「シーボルト授与の修業証書」（レプリカ）

「他藩通鑑状」

「宗門証状」

松江歴史館企画展
（2014（平成26）年2月19日～3月31日）

<医学図書館>

華岡青洲像（不明堂画）掛軸（大森文庫）

松江歴史館「日本の近代化に貢献した出雲人」
（2014（平成26）年3月1日～3月23日）

図書館コンシェルジュ

「図書館コンシェルジュ」とは、本学附属図書館におけるピアサポートと学生の視点によるサービス等の改善を目指す制度である。近年大学図書館において、学生スタッフを図書館の運営や業務の一部に関与させているところはめずらしくなく、本学でも教育開発センターの協力を得て全学のピアサポートプログラムの一環として、2010（平成22）年度より行っている。2013（平成25）年度は前年度の経験者5名を含む16名が図書館コンシェルジュとして活動を行った。

学生スタッフの参加形態や活動内容は各大学によってさまざまであるが、本学では「利用サポート」と「業務サポート」という活動を二つの柱として行っている。

1. 利用サポート

「利用サポート」は主にカウンターにおいて、図書館の使い方や資料の探し方など利用者の質問や相談に対応する活動で、ピアサポートに主眼を置いている。2コマ目から5コマ目途中まで授業の空き時間にシフトを組んで分担して活動した。利用者の大多数を占めているのは学生であることから、コンシェルジュの学生スタッフが対応することで、より質問や相談をしやすい環境や雰囲気をつくることができる。またコンシェルジュ自身にとっても、情報や資料の調べ方などを覚えるよい機会にもなっている。

月	実施率	質問件数
5月	88.6%	229
6月	95.2%	149
7月	89.1%	172
8月	25.0%	2
10月	67.3%	116
11月	91.0%	135
12月	93.3%	94
1月	77.9%	69
2月	25.7%	12
年間	81.3%	978

左の表は2013（平成25）年度の実績である。活動可能なコマ数のうち実際に活動したコマの割合（実施率）およびカウンターで受けた質問件数である。試験期間中は試験を優先するため実施率は低めだが、それ以外の時期は概ね高い水準を保つことができた。質問件数は年度当初がもっとも多く、年度末にかけて減少していく傾向がみられた。

2. 業務サポート

「業務サポート」は図書館コンシェルジュ自身が独自に企画して行う活動で、職員だけでは行き届かないことや、気が付かないようなところを、学生の目線で改善することをめざしている。

2013（平成25）年度の主な活動として、季節感を演出するような館内の飾り付け（七夕やクリスマス）、テーマにそった資料の特設展示コーナー（ブックコンパス）の企画などは以前から引き続いて行っているものである。あらたな試みとして蔵書検索データベースOPACの機能であるMy OPACのクイックガイドを作成したり、ビブリオバトルを企画・開催した。またオリジナル・ブックカバーを作成して配布したところ非常に利用が多く、補充してもすぐに品切れになる状況で、企画したコンシェルジュ自身の予想をこえる人気グッズとなった。



オリジナル・ブックカバー（新書用・文庫用の2タイプ）

3. 学生協働交流シンポジウム

同様の取り組みをしている大学の学生間の交流をはかるため、山口大学、島根県立大学、梅光学院大学と本学の4大学の主催により、大学図書館学生協働交流シンポジウムを年1回開催している。



コンシェルジュのデザインによるシンポジウム・ポスター

2013（平成25）年度の第3回シンポジウムは本学を会場に「私たちの手でつくり出す図書館の形—人を惹きつける空間を目指して—」をテーマとして9月5日、6日の2日間にわたって開催した。前日の台風の影響で急遽参加できなくなった大学があるなどアクシデントもあったが、最終的には15大学から100人弱の参加者があった。

前回までは発表を行うのは先の主催4大学だけであったが、今回は発表などの参加を全国的に募集したところ、中四国地区のみならず遠く関東地方からも応募があり、かなりの反響があった。現時点で大学図書館の学生協働に関してこのようなシンポジウムを行っているところは国内で他にはなく、その点でも注目を集めたと思われる。また、このシンポジウムでは、テーマ策定やポスター制作などの企画から会場準備、当日の受付や案内、司会進行など運営にいたるまで、基本的には主催大学の学生スタッフに担当してもらい、職員はサポート役にまわった。

まず1日目は基調講演と各大学の発表、その後附属図書館のサブ会場に移動してポスターセッションと図書館の館内見学を行った。見学の案内もコンシェルジュが担当した。

続いて2日目の午前には本学図書館コンシェルジュの発表とワールドカフェ、午後は希望者のみで島根県立大学松江キャンパスの「おはなしレストランライブラリー」見学をおこなった。

ワールドカフェは多人数による対話の方式で、参加者が4～5人の小グループに分かれてテーマについて話し合った後、それぞれ別のテーブルに移りまた対話をするというもので、あたかも全員で話し合っているような効果がある。ただ黙って話を聞くだけではなく、全員に何かしら発言の機会が与えられるため、参加者へのアンケートでも好評な企画であった。

このシンポジウムのように、他大学の学生と話をしたり、さまざまな試みを見聞きしたりする機会を得ることは、コンシェルジュの学生にとっては非常に刺激となっている。参加した図書館コンシェルジュのモチベーション向上にもつながり、参加したコンシェルジュにひっぱりられるように後期の活動（特に業務サポート）は活発化した。先にあげたブックカバーの作成も他大学の試みに触発されて企画されたものである。



1日目 基調講演の様子



2日目 ラーニングcommonsでのワールドカフェの様子

4. 今後の課題

利用サポートに関しては、予算の都合で前年度より活動時間を減らざるをえなくなった。そのためそれぞれがシフトにあたる時間が少なくなり、同時に複数でシフトに入ることもなくなった。コンシェルジュ同志や職員とのコミュニケーション不足も指摘された。

業務サポートは自主企画であるため、コンシェルジュの間でも取り組みに温度差が見られ、その年のコンシェルジュの構成によっても左右されがちである。

コンシェルジュの募集は毎年3～4月に行い、その後4月末から5月初めに研修を行っている。将来は前年度から継続して参加するメンバーを中心に、コンシェルジュ自身が自律的に募集から研修まで行う方向を目指している。

より安定した活動のためにもこれらを解決できるような体制づくりを目指している。

（参考）

島根大学図書館コンシェルジュのFacebookページは以下のURLから閲覧できる。

<https://www.facebook.com/shimadailibsapo>



また山口大学図書館学生協働のページから過去3回の学生協働交流シンポジウムの動画が公開されている。

<http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/blog/>



■研究開発室の活動状況

附属図書館研究開発室は、図書館業務やサービスの向上を目指して、室員が専門的な立場から特定課題についての研究開発を行うために2006（平成18）年に設置された。2013（平成25）年度は、戦略的経費の配分を受けて、次の活動を行った。

2013(平成25)－2014(平成26)年度 室員名簿

委嘱名	所属・職名	氏名	テーマ
室長	館長	田籠 博	研究開発室の統括
副室長	医学図書館長	廣田 秋彦	研究開発室の統括（医学図書館関連）
顧問	島根大学名誉教授	松尾 壽	記録史料（近世）
顧問	島根大学名誉教授	常松 正雄	英米文学
室員	法文学部教授	田中 則雄	和古書（国文学）
室員	法文学部准教授	野本 瑠美	和古書（国文学）
室員	法文学部教授	小林 准士	記録史料（近世）
室員	教育学部教授	森本 直人	教科書データベース
室員	教育学部教授	権藤 誠剛	教科書データベース
室員	医学部教授	岩田 淳	西東文庫
室員	総合理工学研究科教授	平川 正人	システム
室員	法文学部教授	野田 哲夫	システム

1. 桑原文庫の調査・研究

- 室員：田中則雄（法文学部教授）
- 室員：小林准士（法文学部教授）
- 室員：野本瑠美（法文学部准教授）

桑原文庫は本館の貴重資料の中心をなすものであるが、1975（昭和50）年に文庫目録が刊行されて以降、解題や展示会などで紹介されてきたのは絵図・古地図、歌書、郷土関連資料などごく一部で、積極的な調査が行われることはなかった。

2012（平成24）年度の図書館の改修工事に伴い貴重資料室が整備されたのを機に、資料の重要性を理解し、整理や調査のための知識を得るため、研究開発室の室員の協力を得て、職員が自発的に研修を行うことにした。

「桑原講座」と名付けられたこの研修会には職員有志10名が参加し、8月～12月の5ヶ月間にわたり計15回（他に自主勉強会8回）開催した。内容は次のとおりである。

- 和書籍のあらまし、くずし字の読み方
（田籠博・附属図書館長）
- 古典籍の基礎知識、書誌調査、近世の版本・写本
（田中則雄・法文学部教授）
- 近世の記録史料の整理、読み方
（小林准士・法文学部教授）
- 歌書の基礎知識、新編国歌大観の利用
（野本瑠美・法文学部准教授）

桑原講座では、文庫の中から室員の専門分野である文学、歴史の資料を教材として取り上げ、資料の特徴や内容、整理の方法などを講義していただいた。くずし字を読む勉強会で

は『懐橘談』をテキストとし、予習しながら毎週少しずつ読み進めていった。初めてくずし字に挑む職員もいたが、初めは記号のようだった文字が読めるようになるにつれ、資料を身近に感じ、ひもとく楽しさを感じるようになっていった。

事務的な業務の繰り返しになりがちな日々の中で、我々は資料を扱うプロでなければならないことを自覚する機会となった。今回取り上げた資料はごく一部であるが、継続していくことで、いずれすばらしい発見があることを期待したい。



2. 教科書データベースの作成

- 室員：森本直人（教育学部教授）
- 室員：権藤誠剛（教育学部教授）

附属図書館の書庫8階には明治始めから昭和半ばにかけての教科書約2万点が収蔵されている。主に島根大学の前身校の一つである旧師範学校から受け継いだ教科書と関連資料であるが、長らく未整理のままだった。

数年前に、附属図書館研究開発室で整理作業に着手し、全点の情報源（表紙・標題紙・奥付）の撮影と、簡易目録データの作成（全体の1/2程度）を行った。一時中断した後に、2013（平成25）年度から再開することになったものである。

データベース化の対象資料

データベース化の対象資料として、次の資料を対象とする。

- 1) 授業で使用された教科書（教師用指導書を含む）
- 2) 教員養成のために使用されるテキスト等の資料
- 3) 学習指導要領／教材・講義用資料などの関連資料

学校教育の現場で使用されていた教科書や学習指導要領などは、その時代にどのような教育がなされていたかを研究する上で欠かせないものだが、加えて、教育方法や教材研究などの教員養成のために使用された教材もまた、その時代の教育内容を研究する上で重要である。上記の資料をデータベース化の対象とすることで、各時代の各種の学校で行われていた教育の実態を研究できるデータベースの構築を目指すこととした。

請求記号体系（書架上での並び）の検討

請求記号（背ラベル）は教科書の書架上の並び順を決めるものである。書架上の並び順は、資料の管理面に影響する他、直接書架にアクセスして資料を探す時の効率を左右するため、慎重に検討した結果、次の区分によることにした。

時代区分（～1948／1949～） > 学校区分
> 教科区分 > 学年 > 検定年・発行年

まず、戦前期（～1948）と戦後の現行検定制度の教科書期（1949～）に大きく時代区分し、その中を学校種別で区分する。さらに、各学校の中を教科に分け、その中を学年、検定年・発行年順に分ける。

システム

データベースは書誌データベースとし、画像データを作成しているものについては、書誌データに画像データをリンクする。

先行事例をもとに、NACSIS-CAT、機関リポジトリ、デジタルアーカイブ、独自システムなど主なシステム類型を検討した結果、教科書特有の切り口（学校種別・教科等）での検索が柔軟にできること、教科書以外の資料が検索結果にノイズとして含まれることがない、などのメリットがあることから、独自データベースとして作成する。

資料の仕訳作業

前述した書架上での並びの体系をもとに、実際に資料の仕訳作業を行った。まず、戦前期と戦後に大きく分けた後、量的に多い戦後期の検定教科書について、アルバイトを雇用して学校種別ごと、教科ごと、学年ごとに並べ直しを行った。

3. 西東文庫の調査・研究

○室員：岩田 淳（医学部教授）

2013（平成25）年度については活動実績なし。

4. デジタルアーカイブ・システム

○室員：平川正人（総合理工学部教授）

○室員：野田哲夫（法文学部教授）

2015（平成27）年3月に予定されている情報処理システムの更新に伴い、画像配信システムの仕様の検討を行った。厳しい予算状況の中で、現有機能の維持を中心に仕様を策定した。

5. その他

（1）資料のデジタル化

次の資料のデジタル化を行い、デジタルアーカイブから公開した。

（本館）

- ・桑原文庫 45冊
- ・大智度論 2巻

（医学図書館）

- ・大森文庫 掛軸4幅
- ・松尾家史料 47冊
- ・小笹家文庫（寄託資料） 5冊

（2）資料保存対策

2011（平成21）年度に行ったマイクロ資料の劣化状況調査の結果に基づき、劣化が進行しているマイクロフィルムの複製作成を毎年計画的に行っている。2013（平成25）年度は、「ヘルン文庫」200巻の複製を作成した。

これまでに作成した複製は、2011（平成21）年度からの累計で、460巻となった。

（3）林家文書・熊谷家文書

未整理分の林家文書2073点、熊谷家文書74点の目録作成が完了し、寄付受入・資産登録を行った。OPACへの登録も完了し、史料名でのOPAC検索ができる他、OPAC検索結果から詳細な冊子目録（画像データ）へのリンクを行った。

（4）古医学書・本草学

次の資料の寄付受入を行った。

- ・松尾家史料 124点
- ・松本家史料 90点

また、大森文庫の掛軸及び松尾家史料、小笹家文庫（寄託史料）などの古医学書関連史料をデジタル化し、公開した（上記5.（1）参照）。

■遺跡資料リポジトリ

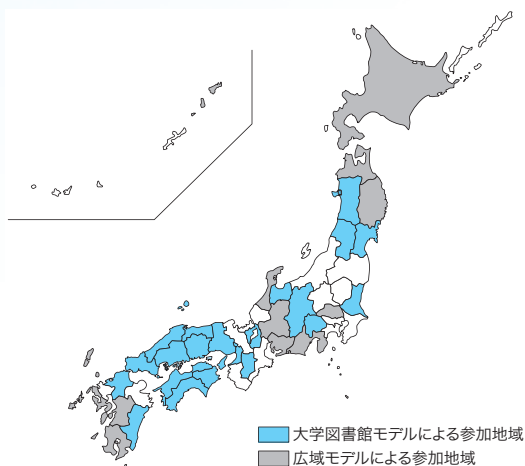
全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクトは、本学附属図書館が全国の大学に呼び掛けて推進する、遺跡の発掘調査報告書を電子化してインターネット上に公開するプロジェクトである。学術機関リポジトリの普及を背景にして、少数発行で入手が困難な灰色文献である発掘調査報告書に着目し、考古学分野の主題分野別リポジトリとして開始したもので、2008（平成20）年度の開始当初から国立情報学研究所（NII）の最先端学術情報基盤整備（CSI）事業の委託を受けて推進してきた。2012（平成24）年度をもって5年間に亘ったCSI委託事業は終了したが、その後も本学を事務局として事業を継続して実施している。

2013（平成25）年度は次のような取組みを行った。

1. 広域モデルの参加機関の拡大

国立情報学研究所によるCSI委託事業においては、島根大学を含む21の大学が連携して事業を推進したが、大学図書館が仲介して進める「大学図書館モデル」では、大学図書館の意向に左右されることからこれ以上の参加地域の拡大は難しい状況となった。このため、発掘調査報告書の発行機関である自治体や埋蔵文化財センターが直接参加できる「広域モデル」を国立文化財機構奈良文化財研究所と連携して2012（平成24）年度から開始した（国立情報学研究所〈NII〉の共同サーバを使用）。2013（平成25）年度は「広域モデル」への参加機関が新たに15機関増えて23機関となった。

自治体担当者による報告書コンテンツのセルフアーカイブ件数も順調に伸びて累計で934冊となった。



2. 科研費による電子化の推進

2013（平成25）年度は、前年度に引き続き科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を取得して、発掘調査報告書の電子化を行った。

連携大学からの依頼で電子化した報告書は1,148冊（128,784ページ）、広域モデル参加自治体からの依頼で電子化した報告書は446冊（93,127ページ）で、合計1,574冊（221,911ページ）となった。

プロジェクト経費で電子化した報告書は、これまでの6年間の累計で、13,511冊（1,488,545ページ）となった。

3. 奈良文化財研究所との協議

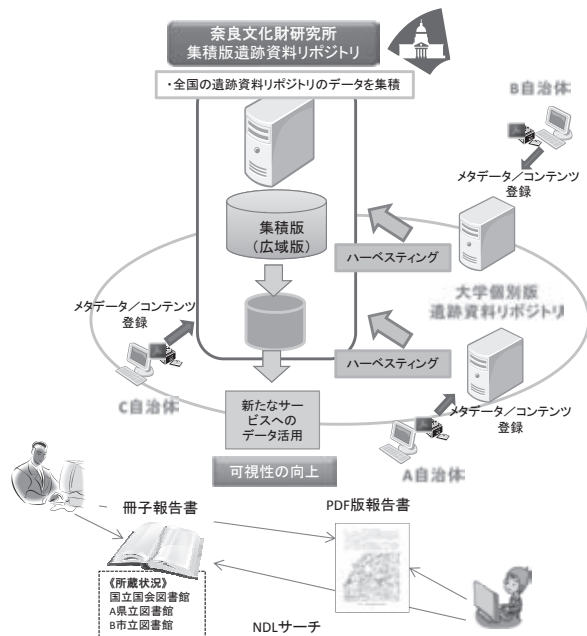
「広域モデル」の後継となるシステムを奈良文化財研究所に構築する方向で、数年来協議を進めてきたところであるが、

基本的な合意に達し、2013（平成25）年度から3年計画で進めることになった。

奈良文化財研究所にシステムが構築された後は、NIIの共同サーバ上で運用している「広域版遺跡資料リポジトリ」を移行する計画である。

4. 将来計画

連携大学に対して、遺跡資料リポジトリの運用についての意向調査を実施したところ、いくつかの大学を除くほとんどの大学が、奈良文化財研究所に構築されるシステムへの移行を希望する結果となった。当面は自治体等の報告書発行機関が直接参加する奈良文化財研究所の遺跡資料リポジトリ（「広域モデル」）と、大学個別版遺跡資料リポジトリ（「大学図書館モデル」）が並列する形をとるが、奈良文化財研究所のサーバ上に、全国のすべての遺跡資料リポジトリのコンテンツが集積されるように計画している。



5. 課題と展望

将来の課題としては、①奈良文化財研究所で運用される遺跡資料リポジトリが安定的に運用されるとともに、参加機関が拡大していくこと、②外部サービスと連携して、集積されたコンテンツを活用することによって、コンテンツの可視性を高めることを挙げておきたい。

■2013(平成25)年度データ

2013 Data

		本館 (松江キャンパス)	医学図書館 (出雲キャンパス)	合 計	
開 館 日 数	平 日	230	239		
	土・日・祝 日	68	90		
	合 計	298	329		
利 用 対 象 者 数 (平成26年5月1日現在)	教 職 員	2,695		2,695	
	学 生	5,081	1,104	6,185	
	学 外 者	882	76	958	
	合 計			9,838	
入 館 者 数	学 生・教 職 員	281,302	187,988	469,290	
	学 外 者	10,097	348	10,445	
	合 計	291,399	188,336	479,735	
貸 出 冊 数	学 生	44,462	11,297	55,759	
	教 職 員	5,019	2,224	7,243	
	学 外 者	2,960	337	3,297	
	合 計	52,441	13,858	66,299	
蔵 書 冊 数 (平成26年3月31日現在)	和 漢 書	628,691	65,954	694,645	
	洋 書	154,420	66,194	220,614	
	合 計	783,111	132,148	915,259	
図 書 受 入 冊 数	和 漢 書	購 入	7,286	1,630	8,916
		寄 贈・そ の 他	47,970	3,367	51,337
		計	55,256	4,997	60,253
	洋 書	購 入	451	134	585
		寄 贈・そ の 他	7,138	3,059	10,197
		計	7,589	3,193	10,782
	合 計	62,845	8,190	71,035	
雑 誌 所 蔵 種 類 数	和 雑 誌	8,461	2,239	10,700	
	洋 雑 誌	2,948	1,719	4,667	
	合 計	11,409	3,958	15,367	
雑 誌 受 入 種 類 数	和 雑 誌	購 入	549	197	746
		寄 贈・そ の 他	1,356	210	1,566
		計	1,905	407	2,312
	洋 雑 誌	購 入	179	32	211
		寄 贈・そ の 他	53	33	86
		計	232	65	297
合 計	2,137	472	2,609		
資 料 費 (千円)	学 生 用 図 書	15,807	5,289	21,096	
	雑 誌	5,810	3,612	9,422	
	小 計	21,617	8,901	30,518	
	デ ー タ ベ ー ス	9,754		9,754	
	電 子 ジャ ー ナ ル	87,439		87,439	
	合 計	127,711			
文 献 複 写 件 数	受 付	997	1,791	2,788	
	国 内 依 頼	1,908	1,470	3,378	
	海 外 依 頼	1	0	1	
現 物 貸 借 件 数	貸 出	264	25	289	
	借 受	430	18	448	

入館者数の計測方式を変更
(入館ゲートの人数を採用)
のため前年度よりも減少

■利用者 In-Library Users

本館は耐震・機能改修工事に伴い、入館者数のカウント方式を従来の入館カウンタによる計測から入館ゲートによる計測に変更した。このため統計上の入館者数が減少しているが、本館の入館ゲートによる入館者数を見ると、2010年度と2011年度に比べ増加していることがわかる。入館カウンタによる計測は、赤外線遮断回数計測のため、手の動き等による遮断もカウントすることから多めにカウントされる傾向にあった。

向にあった。

医学図書館での入館者は、2013年度は減少しており、2011年度以降減少傾向にある。

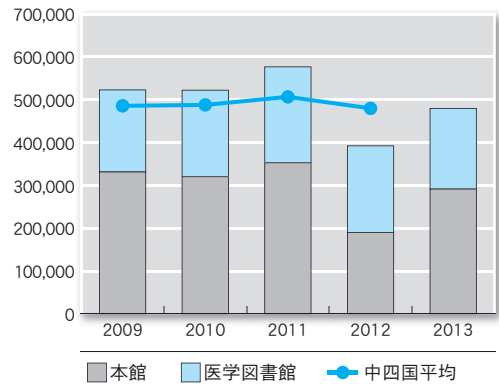
※中四国平均は、「日本の図書館：統計と名簿」（日本図書館協会編）に掲載の中国四国地区国立大学のうち、島根大学と同規模校（学部数2～7学部）7校（広島・岡山・鳴門教育大学を除く）の平均値を用いた。（以下同様）

入館者数の計測方式変更

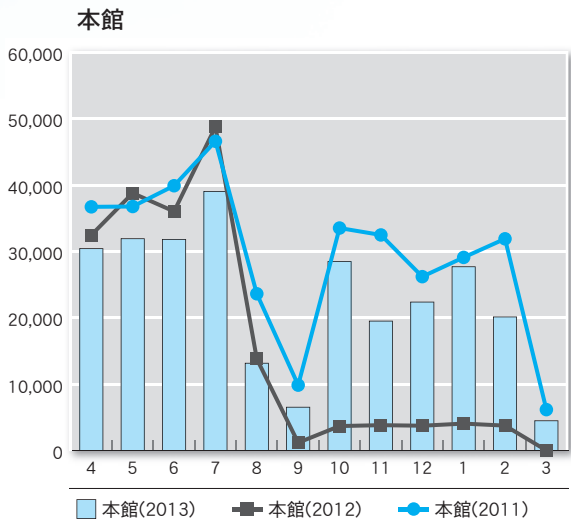
■入館者数

		2009	2010	2011	2012	2013
本館	学生・教職員	320,458	308,935	342,100		281,302
	学外者	10,846	11,247	10,618		10,097
	小計	331,304	320,182	352,718	189,974	291,399
入館ゲート		データなし	273,694	273,837	データなし	275,391
医学図書館	学生・教職員	191,149	201,531	223,570	201,885	187,988
	学外者	405	581	425	448	348
	小計	191,554	202,112	223,995	202,333	188,336
合計		522,858	522,294	576,713	392,307	479,735

※本館では2012年度に耐震改修工事のため、利用者別入館者数は不明。

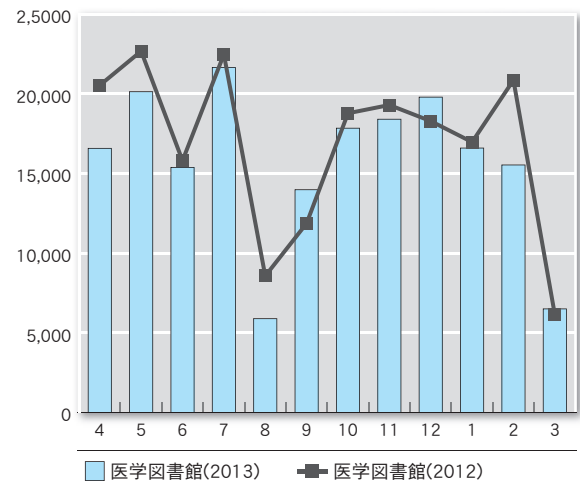


■月別入館者数



月別入館者数の状況を年度別に比較したものである。本館は、昨年度は耐震・機能改修工事があったため、2011年度のデータを加えた。計測の基準が違うため2013年度が少なく表現されているが、11月と2月を除き同様の傾向にある。

医学図書館



医学図書館では、前年度に比べ9月、12月に増加が見られるが、4月、5月、8月、2月で減少しているため、全体では減少している。

本館では、改修前の2011年度と比べ教職員、学外者への貸出が伸びているが、学生への貸出は若干減っている。

学部別の学生1人あたりの年間平均貸出冊数と学部別/学年別貸出冊数をみると、法文学部は各学年を通じよく図書を利用している。教育学部の貸出は、全体として増加傾向だが

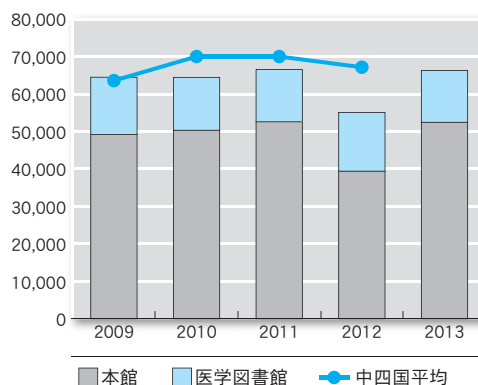
1年生の貸出は少ない。

医学図書館では、学生への貸出が大きく減少している。

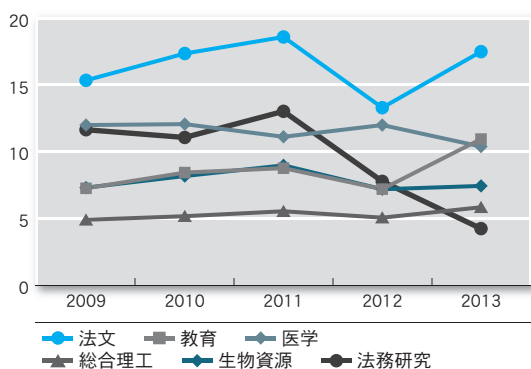
月別貸出冊数は、本館は2011年度と同様の状況であるが、医学図書館では4月、3月を除き前年度より低い傾向にある。

■貸出冊数

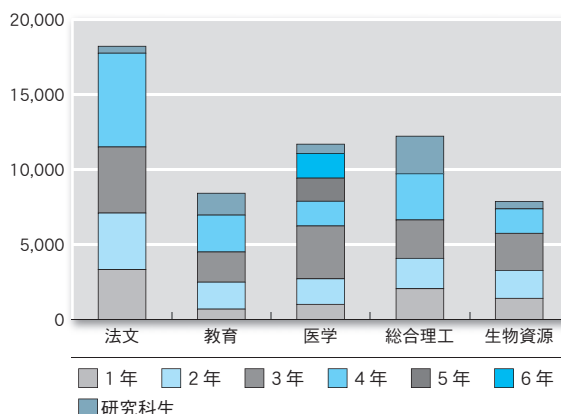
		2009	2010	2011	2012	2013
本館	学生	42,711	44,274	46,083	35,500	44,462
	教職員	4,209	4,018	4,546	2,514	5,019
	学外者	2,295	2,019	1,950	1,371	2,960
	小計	49,215	50,311	52,579	39,385	52,441
医学図書館	学生	11,717	12,205	11,720	13,013	11,297
	教職員	3,048	1,315	1,605	2,331	2,224
	学外者	501	612	618	358	337
	小計	15,266	14,132	13,943	15,702	13,858
合計	64,481	64,443	66,522	55,087	66,299	



■学生1人あたりの年間平均貸出冊数

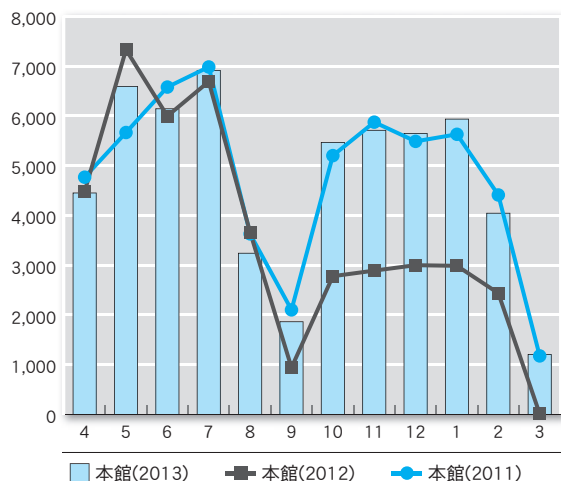


■学部別/学年別貸出冊数

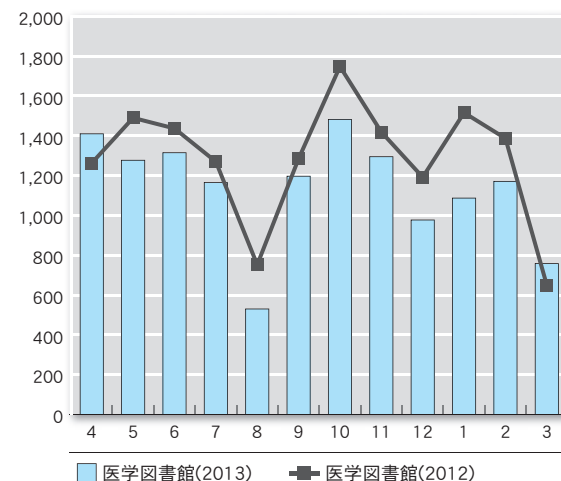


■月別貸出冊数

本館



医学図書館



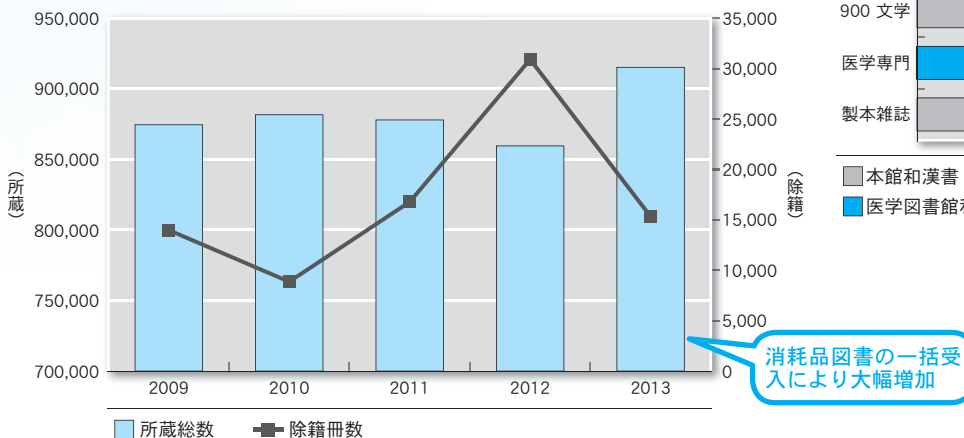
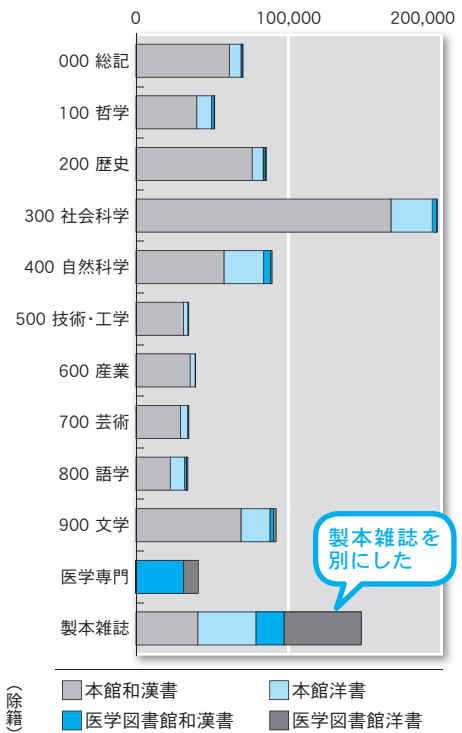
蔵書冊数は、通常の購入分に加えて、消耗品図書のまま利用に供してきた図書を一括して備品受入したことにより、915,259冊と増加した。また、分類別蔵書数は、算定の基礎を所蔵データベースに変更して製本雑誌を別に分けたことにより、実際の状況を反映した数字になっている。

なお、昨年度までの数字は、受入時の分類をもとにした累積であるため、分類変更や製本雑誌が含まれることから、実際の実数とは異なっていた。

受入冊数は、消耗品図書の一括受入分を除いた冊数を表しているが、前年度よりも増加した。

■ 蔵書冊数（分類別）

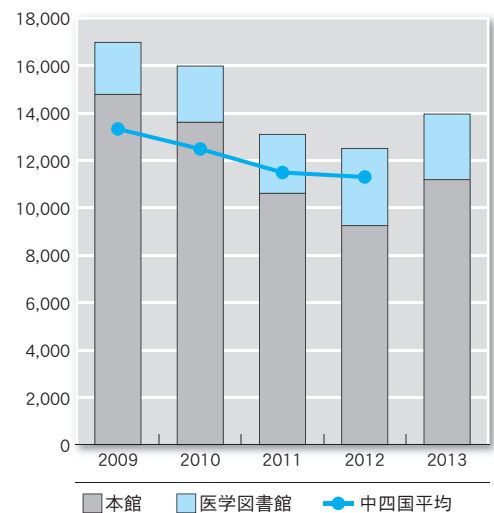
	本館			医学図書館			合計
	和漢書	洋書	小計	和漢書	洋書	小計	
000 総記	61,108	7,596	68,704	1,016	367	1,383	70,087
100 哲学	39,736	9,751	49,487	1,597	408	2,005	51,492
200 歴史	76,070	7,151	83,221	1,300	659	1,959	85,180
300 社会科学	166,892	27,051	193,943	2,807	560	3,367	197,310
400 自然科学	57,552	25,996	83,548	4,614	952	5,566	89,114
500 技術・工学	31,145	2,774	33,919	524	33	557	34,476
600 産業	35,430	3,230	38,660	311	26	337	38,997
700 芸術	29,164	4,529	33,693	752	136	888	34,581
800 語学	22,451	9,336	31,787	1,197	1,001	2,198	33,985
900 文学	68,708	18,963	87,671	2,233	1,892	4,125	91,796
医学専門	0	0	0	31,184	9,608	40,792	40,792
製本雑誌	40,435	38,043	78,478	18,419	50,552	68,971	147,449
合計	628,691	154,420	783,111	65,954	66,194	132,148	915,259



消耗品図書(57,077冊)
一括受入を除く

■ 受入冊数

			2009	2010	2011	2012	2013
本館	和漢書	購入	8,846	7,681	7,610	7,497	7,286
		寄贈・その他	4,743	3,817	2,270	995	3,171
		計	13,589	11,498	9,880	8,492	10,457
	洋書	購入	941	567	584	655	451
		寄贈・その他	259	1,545	148	99	279
		計	1,200	2,112	732	754	730
小計	計	14,789	13,610	10,612	9,246	11,187	
医学図書館	和漢書	購入	1,370	1,731	1,117	2,227	1,630
		寄贈・その他	505	242	963	636	885
		計	1,875	1,973	2,080	2,863	2,515
	洋書	購入	286	370	375	346	134
		寄贈・その他	35	31	34	53	122
		計	321	401	409	399	256
小計	計	2,196	2,374	2,489	3,262	2,771	
合計	計	16,985	15,984	13,101	12,508	13,958	



図書館資料費

Expenditures for Library Materials

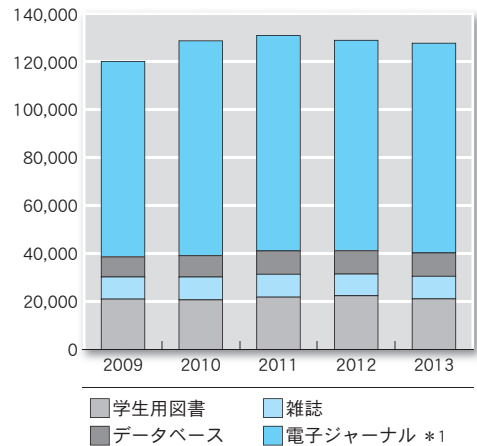
学生用図書、雑誌経費として共通経費が配分されるようになったため、購入規模が維持されている。また、資料費の大部分を占める電子ジャーナル経費は、全学共通経費や部局負担により維持されている。

本館の学生用図書購入冊数は若干減ったため、学生1人当たり購入冊数が、1冊を下回った。医学図書館では、平均購入単価が低かったことから購入冊数が増加し、1人1冊に近づいた。

図書館資料費の推移

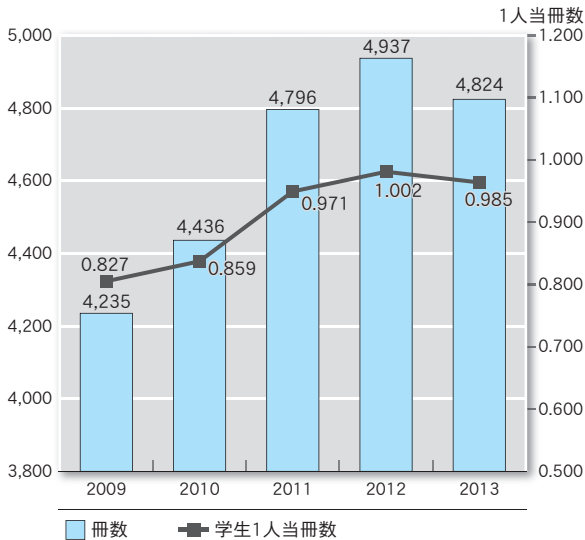
		2009	2010	2011	2012	2013
本館	学生用図書	15,651	15,376	15,704	16,238	15,807
	雑誌	5,759	5,920	5,666	5,231	5,810
	小計	21,410	21,296	21,370	21,469	21,617
医学図書館	学生用図書	5,361	5,306	6,127	6,167	5,289
	雑誌	3,461	3,617	3,864	3,820	3,612
	小計	8,822	8,923	9,991	9,987	8,901
データベース		8,372	8,893	9,743	9,700	9,754
電子ジャーナル*1		81,539	89,590	89,810	87,766	87,439
合計		120,143	128,702	130,914	128,922	127,711

*1 学術情報基盤整備計画(P.11参照)にかかる経費相当分

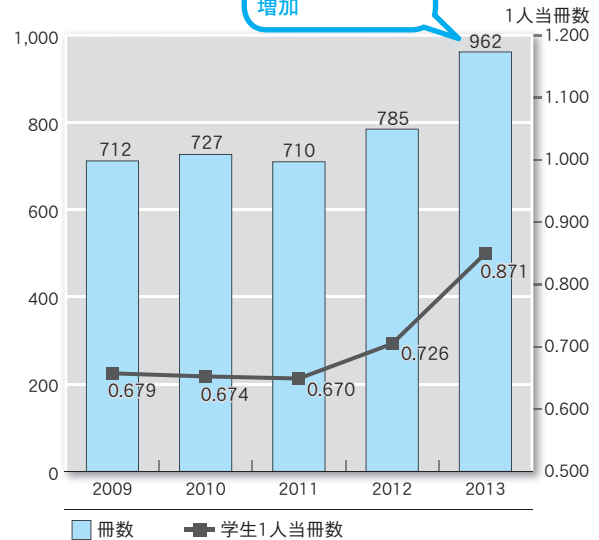


学生用図書

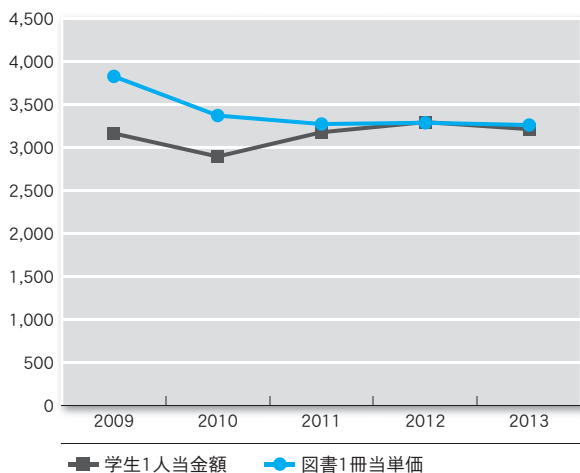
本館



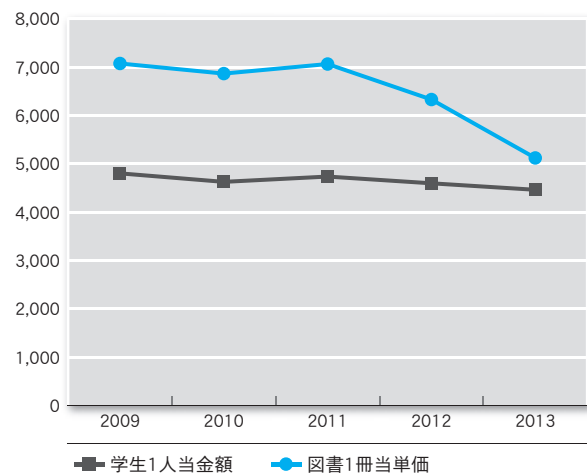
医学図書館



本館



医学図書館



図書館備付分は国内で発行された和雑誌が中心である。洋雑誌は電子ジャーナルへの切替が進んでいるため、数えるほどしかない。

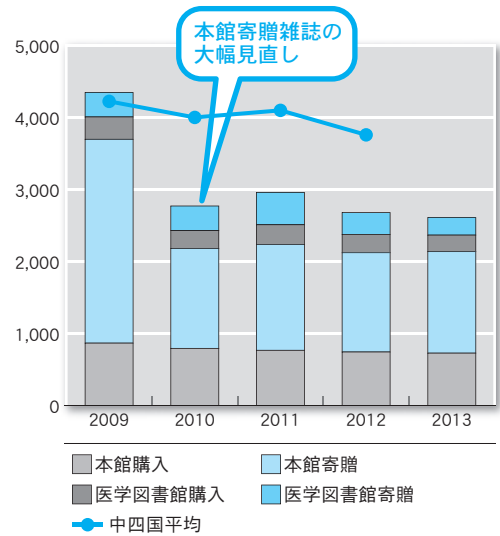
本館では配架保存スペースが不足しており、2010年度から寄贈雑誌の受入について見直しを行ってきた。所蔵雑誌の半数以上は、他大学、官公庁、学会、企業等からの寄贈であるが、大学や官公庁の刊行物はHPなどで電子版が公開され

るケースも増えているため、受入基準の見直しを進めている。また、電子ジャーナルのバックファイル購入などにより永続アクセス権のある雑誌については廃棄するなど、将来を見据えた書庫環境の維持に努めている。

改修工事も終わり、和洋とも未製本雑誌と製本雑誌を別々に配架していたものを一緒に使えるよう配架しなおした。

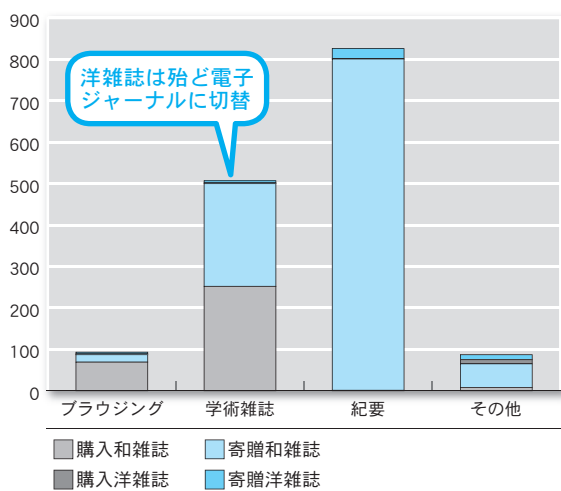
■ 受入種類数

			2009	2010	2011	2012	2013
本館	和雑誌	購入	604	590	572	569	549
		寄贈・その他	2,686	1,325	1,416	1,324	1,356
		計	3,290	1,915	1,988	1,893	1,905
	洋雑誌	購入	263	204	195	175	179
		寄贈・その他	142	62	52	54	53
		計	405	266	247	229	232
小計			3,695	2,181	2,235	2,122	2,137
医学図書館	和雑誌	購入	212	181	212	180	197
		寄贈・その他	271	275	416	270	210
		計	483	456	628	450	407
	洋雑誌	購入	99	67	63	73	32
		寄贈・その他	68	66	32	34	33
		計	167	133	95	107	65
小計			650	589	723	557	472
合計			4,345	2,770	2,958	2,679	2,609

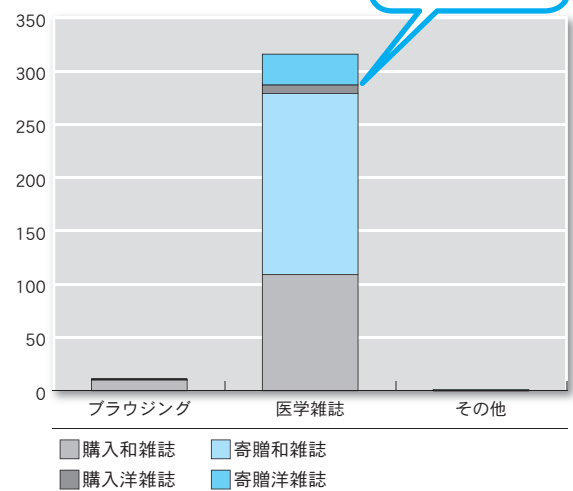


■ 所在別タイトル数

本館



医学図書館

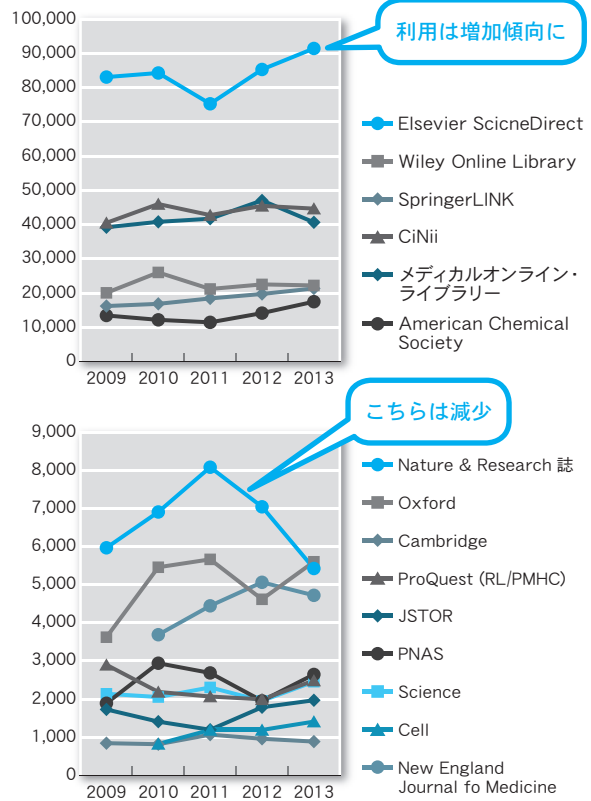


■契約タイトル数

電子ジャーナル経費(全学共通経費等)	タイトル	単位	数
	Cambridge Online Package	洋	319
	Cell	洋	1
	Elsevier : ScienceDirect	洋	2,231
	JSTOR : Arts / Health & General Sciences*	洋	244
	Nature & Research誌	洋	5
	New England Journal of Medicine	洋	1
	Oxford Online Package	洋	256
	PNAS	洋	1
	ProQuest : Research Library / Health and Medical Complete *	洋	6,100
	Science	洋	1
	SpringerLINK	洋	1,700
	Wiley Online Library	洋	1,366
	CiNii (サイニイ)	和	457
	小 計		12,682
部局経費	タイトル	単位	数
	American Chemical Society (ACS)	洋	41
	American Physical Society (APS)	洋	8
	British Medical Journal (BMJ)	洋	23
	IEEE : CSDL	洋	27
	Karger	洋	74
	Lippincott Williams and Wilkins(LWW)	洋	57
	Project Euclid	洋	30
	その他単体	洋	51
	メディカルオンライン*	和	967
	小 計		1,278
タイトル数 合計			13,960

*アグリゲータ系(複数出版社のタイトルを集めたパッケージ。全文収録タイトル数)

■主要電子ジャーナルの利用状況



■ダウンロード数の多いタイトル(Top20)

順位	タイトル	プラットフォーム	ダウンロード数
1	New England Journal of Medicine	New England Journal of Medicine	4,724
2	Journal of Biological Chemistry	American Society for Biochemistry and Molecular Biology	4,296
3	Journal of the American Chemical Society	American Chemical Society	4,062
4	The Journal of Organic Chemistry	American Chemical Society	4,047
5	Nature	Nature Publishing Group	3,705
6	PNAS	National Academy of Sciences	2,645
7	Science	American Association for the Advancement of Science	2,455
8	Organic Letters	American Chemical Society	2,329
9	Scientia Horticulturae	Elsevier ScienceDirect	2,102
10	Journal of Clinical Oncology	American Society of Clinical Oncology	1,540
11	Blood	American Society of Hematology	1,538
12	Cell	Elsevier ScienceDirect	1,412
13	Tetrahedron Letters	Elsevier ScienceDirect	1,337
14	The Lancet	Elsevier ScienceDirect	1,255
15	The Journal of Immunology	American Association of Immunologists	1,213
16	Tetrahedron	Elsevier ScienceDirect	1,121
17	Biochemical and Biophysical Research Communications	Elsevier ScienceDirect	1,098
18	Cancer Research	American Association for Cancer Research	1,090
19	Journal of Nuclear Materials	Elsevier ScienceDirect	1,078
20	The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism	Endocrinology society	1,053

購入している電子ジャーナルに大きな変更はないが、パッケージ収録タイトル数の増加に伴い、利用できる電子ジャーナルもここ数年微増傾向にある。

上のグラフは、主要電子ジャーナルの利用状況(フルテキストのダウンロード数)である。利用数に大きな差があるのは、パッケージに含まれるタイトル数の違いが影響している。

上段グラフでは、昨年につづき、Elsevier ScienceDirectが増加している。対照的にNatureは大きく減少している。

左の表は、タイトル別のダウンロードランキングである。タイトルベースで見ると、プラットフォームの規模に関係なく利用されているのがわかる。2013年度はTop3に変更があり、これらのダウンロード数が昨年度より2割弱減少した。

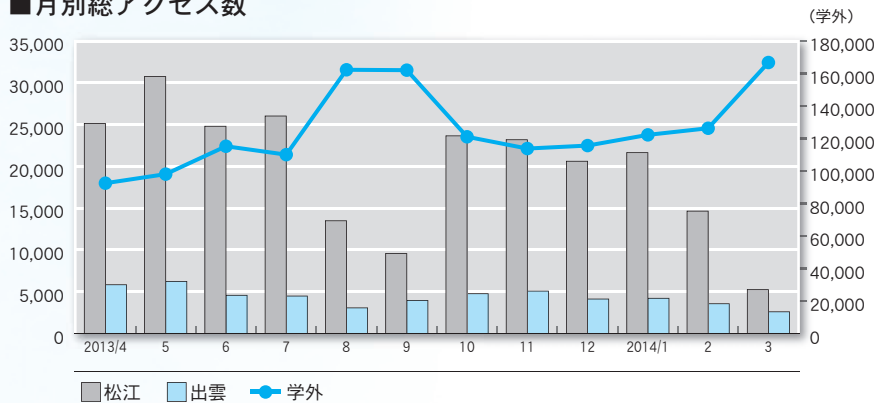
ホームページは、図書館サービスのポータルとして様々なコンテンツを提供している。情報検索はもちろん、MyOPACを通じて、来館しなくてもサービスが受けられるようになっている。

松江キャンパスは、長期休業期間中は減るものの、年間を通じてよく利用されている。特に情報検索講習会や授業で頻りに利用する5月～6月は、毎年利用が多くなっている。出雲キャンパスでは年間を通じた利用がある。

利用の多いメニューを見てみると、両キャンパスともトップページに用意している検索ボックスと、電子リソース検索が上位を占めている。

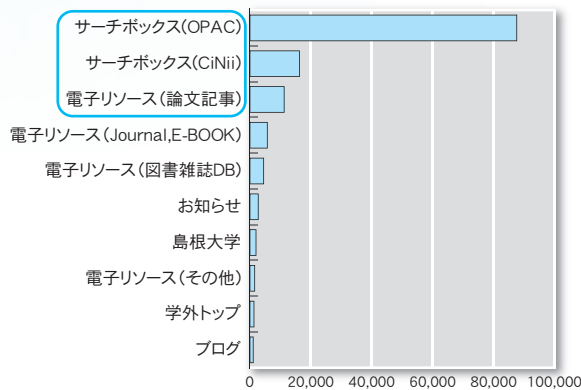
検索ボックスの中で最も利用が多いのはOPAC（蔵書検索）であるが、これに続いて、松江キャンパスでは論文検索用のCiNii Articles、出雲キャンパスではPubMedがよく使われており、それぞれのキャンパスの学部構成、研究分野を反映している。

■月別総アクセス数

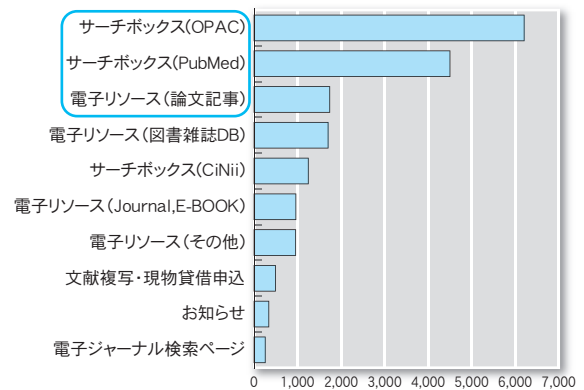


■よく利用されたメニュー

松江キャンパス



出雲キャンパス



■電子リソース (ARB) 利用状況

松江キャンパス

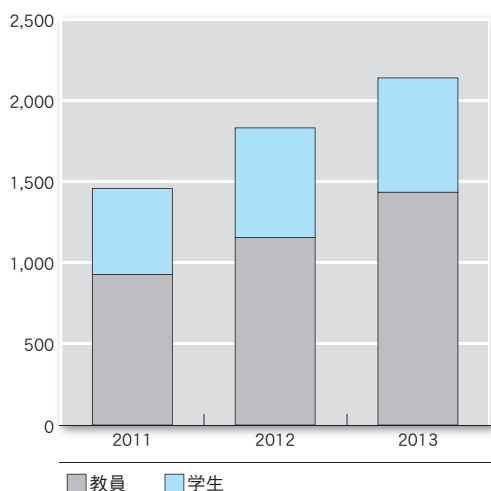
出雲キャンパス

順位	メニュー	アクセス数	メニュー	アクセス数
1	朝日新聞「聞蔵IIビジュアル」	2,095	医中誌Web	6,318
2	Web of Science	2,045	PubMed	3,059
3	日経テレコン21	1,563	メディカルオンライン	1,678
4	CiNii	1,426	JCR (Journal Citation Reports)	589
5	ヨミダス歴史館	1,422	UpToDate	537
6	ジャパンナレッジ (JapanKnowledge)	1,273	島大OPAC	331
7	島大OPAC	920	Web of Science	329
8	LLi統合型法律情報システム	597	電子ジャーナル検索ページ	302
9	電子ジャーナル検索ページ	515	JMEDPlus (JDreamII)	217
10	法律判例文献情報 (D1-Law.com)	460	CINAHL (EBSCO)	191

検索ボックスで利用できない電子ジャーナルやデータベースは、電子リソース検索を利用すると効率よく検索できる。左の表は、電子リソース検索のページを経由して利用されたデータベース等のアクセス数を示したものである。利用状況を見ると、両キャンパスの利用の特徴がよくわかる。

松江キャンパスでは朝日新聞「聞蔵II」や、日経テレコン21が利用されており、出雲キャンパスでは、医中誌Webやメディカルオンライン等の検索ボックスから利用できないものが、電子リソースから多く利用されている。

■EZproxyログイン件数

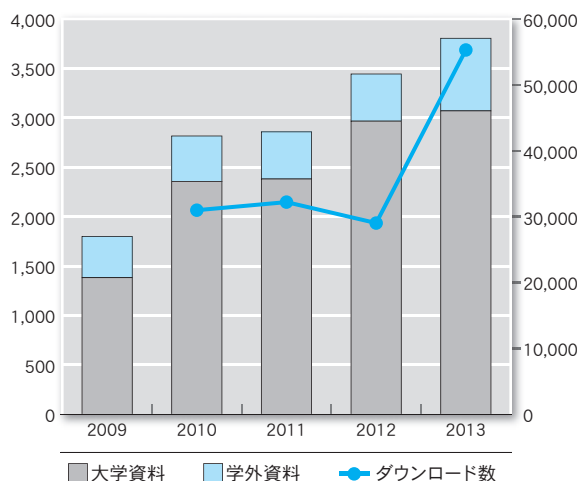


順位	サイト名	松江	出雲	合計
1	PubMed	3,412	38,587	41,999
2	AMS	11,070	0	11,070
3	ScienceDirect	5,488	4,363	9,851
4	電子ジャーナル検索ページ	3,882	3,657	7,539
5	CiNii	3,249	1,808	5,057
6	Google Scholar	4,051	609	4,660
7	Web of Knowledge	3,203	1,181	4,384
8	Wiley Online Library	1,063	2,723	3,786
9	Springer LINK	2,502	1,250	3,752
10	American Chemical Society	1,752	369	2,121

EZproxyは、学外から本学契約のデータベース、電子ジャーナルを利用できるサービスである。自宅や出張先からでも利用できるため、学生よりも教員のアクセスが多く利用数も年々増えている（左グラフ）。

上の表はEZproxy経由で利用されたデータベース等のアクセス数を示したものである。

■デジタルアーカイブ

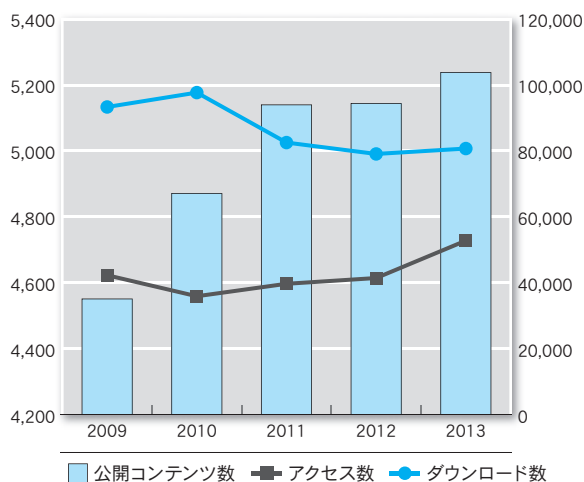


順位	所蔵	書名	巻	件数
1	貴重資料室	堀尾期松江城下町絵図		1,128
2	桑原文庫	出雲風土記抄	一	1,101
3	桑原文庫	天草原之城攻諸手仕寄場惣絵図		771
4	林家文書	波止掛り人足賃銀勘定引渡帳		607
5	桑原文庫	永禄江戸図		600
6	桑原文庫	出雲風土記抄	二	576
7	桑原文庫	出雲風土記抄	四	522
8	国立国会図書館	慶長日本図		521
9	桑原文庫	出雲風土記抄	三	510
10	個人蔵	松江大火の図		502

デジタルアーカイブ・システムは、本学所蔵の貴重資料のほか、学外の個人や機関が所蔵する資料についても許諾を得て電子化し、ホームページで閲覧できるようにしたものである。毎年計画的に登録作業を行っており、収録コンテンツの増加に伴い利用も伸びてきている（左グラフ）。

上の表は、アクセス数の累計による上位10件のコンテンツで、本学貴重資料と桑原文庫資料がよく利用されている。

■島根大学学術情報リポジトリ



島根大学学術情報リポジトリは、本学の紀要論文を中心に公開している。2011年度以降は、コンテンツ数が伸び悩んでいる。また、2012年度より博士論文を各大学のリポジトリより公開することとなったため収集を開始している。

7月にリポジトリシステムをCMS社製のE-RepositoryからENU Technologies社製のEarmasへ変更し、登録されているコンテンツの整理を行った。今後、大学の教員情報のページ等との連携も行う予定である。

相互協力

Interlibrary Loan

文献複写件数

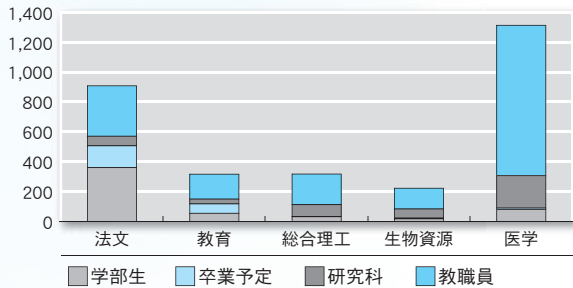
		2009	2010	2011	2012	2013
本館	受付	1,469	1,243	1,294	315	997
	国内依頼	3,666	3,954	2,910	3,156	1,908
	海外依頼	9	12	8	10	1
	依頼小計	3,675	3,966	2,918	3,166	1,909
医学図書館	受付	2,422	1,994	2,182	1,881	1,791
	国内依頼	3,303	1,950	2,115	2,136	1,470
	海外依頼	15	2	0	1	0
	依頼小計	3,318	1,952	2,115	2,137	1,470

現物貸借件数

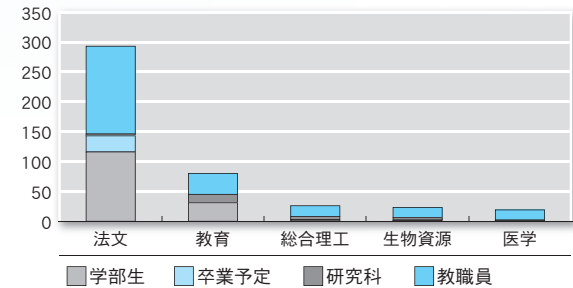
		2009	2010	2011	2012	2013
本館	貸出	307	368	413	55	264
	借受	565	632	478	435	430
医学図書館	貸出	9	9	41	22	25
	借受	29	21	18	43	18

※県内公共図書館との貸借分を含む。

文献複写依頼の学部別内訳



現物貸借借受の学部別内訳



文献複写は、受付、依頼とも年々減少傾向にある。電子ジャーナルや機関リポジトリによる電子資料の普及によるところが大きく、中国四国平均でも同様の傾向が出ている。

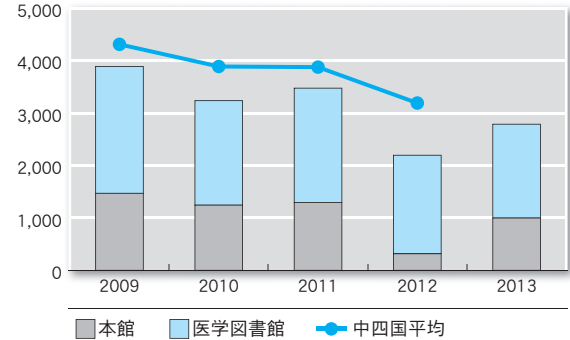
現物貸借は、増加傾向にあったものが、減少に転じている。学部別の内訳を見ると、文献複写依頼では法文学部、医学部の利用が多く、現物貸借借受では法文学部の利用が多くなっている。

県内図書館間の相互貸借

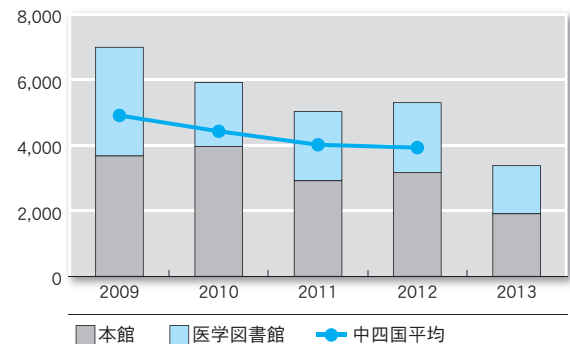
	貸出冊数					借受冊数				
	2009	2010	2011	2012	2013	2009	2010	2011	2012	2013
島根県立大学(松江)	6	7	8	3	15	1	3	4	6	9
松江高専	11	10	7	4	1	0	1	3	0	0
島根県立図書館	5	9	14	7	6	23	27	6	11	18
県立以外の公共図書館	22	96	120	53	111	6	3	19	4	23
合計	44	122	149	67	133	30	34	32	21	50

※島根県大学・高等専門学校図書館協議会の松江市内の物流ネットワーク及び島根県立図書館の県内物流ネットワークによる

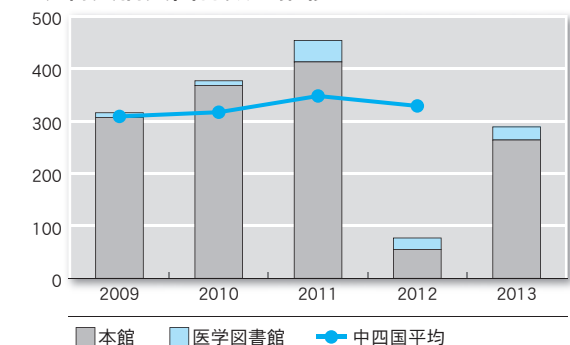
文献複写受付(提供)件数の推移



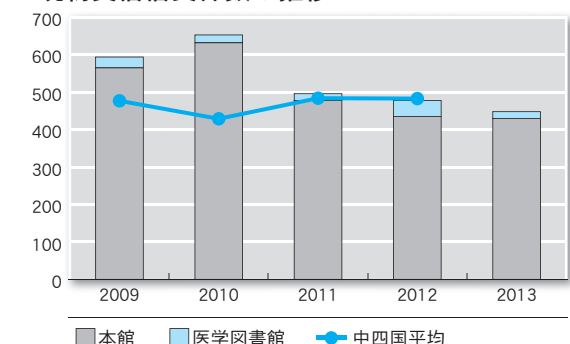
文献複写依頼(取寄)件数の推移



現物貸借貸出件数の推移



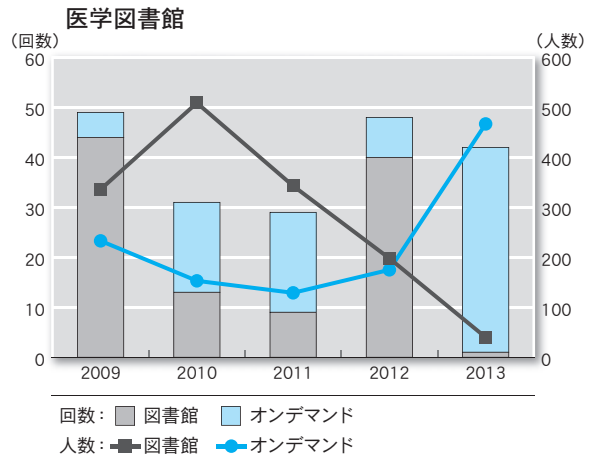
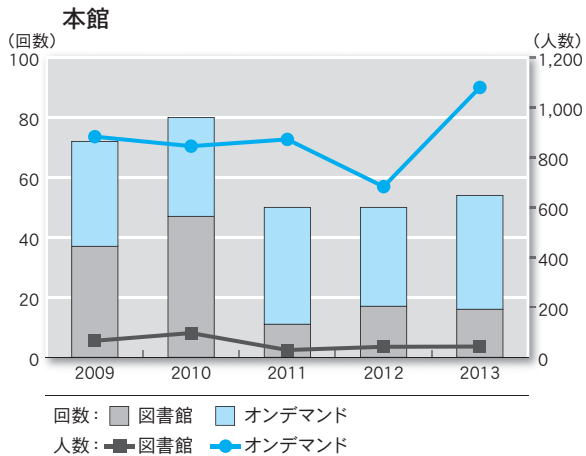
現物貸借借受件数の推移



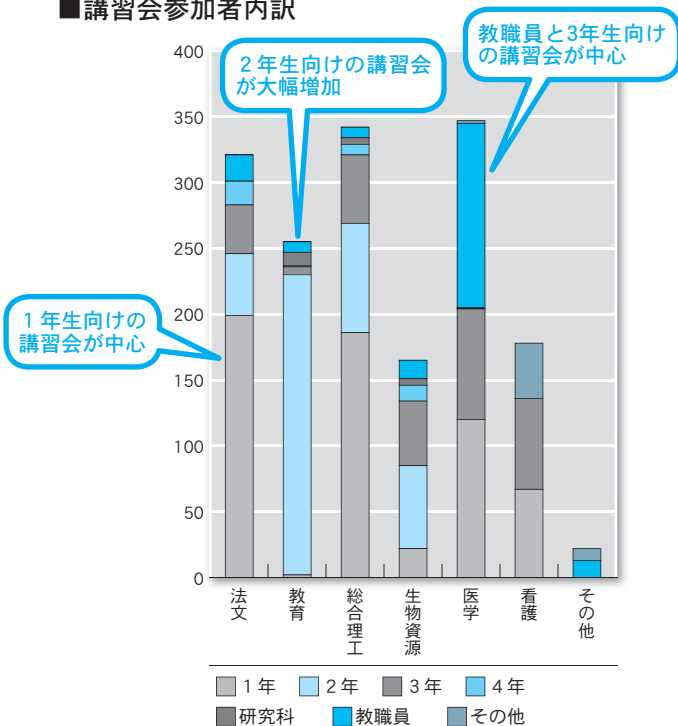
■ 学術情報リテラシー講習会

			2009	2010	2011	2012	2013
本館	図書館主催	回数	37	47	11	17	16
		参加者数	66	97	29	42	43
	オンデマンド	回数	35	33	39	33	38
		参加者数	883	845	872	683	1,080
医学図書館	図書館主催	回数	44	13	9	40	1
		参加者数	336	509	343	198	40
	オンデマンド	回数	5	18	20	8	41
		参加者数	233	153	129	175	467
参加総数			1,518	1,604	1,373	1,098	1,630

■ 講習会開催状況



■ 講習会参加者内訳



本館と医学図書館では、学術情報リテラシー講習会の開催方法や内容が若干異なる。学部により必要とされる資料や利用方法が異なるため、それぞれのキャンパスに適応した講習の内容や方法を模索しながら開催している。

本館では、講習会を図書館主催からオンデマンド講習会(授業と連動した講習会)を中心に行うようにしており、2013(平成25)年度は参加者数も増加した。

医学図書館でも図書館主催講習会からオンデマンド講習会中心に切り替えたことにより、参加者数が増加している。

参加者内訳を見ると、法文学部・総合理工学部・医学部の参加が多くなっている。図書館の資料、あるいは電子ジャーナルや文献検索の利用が多い学部は、まず講習をしっかりと受け、その後の図書館利用に繋がっていくようである。

学年別では、教育学部と生物資源科学部を除き1年生の参加が多いことがわかる。本館では、まず1年生のうちにオンデマンド講習会を通じてOPAC検索など、図書館の基本的な利用方法を学ばせるという考え方が定着してきており、4月から6月にかけては特に開催数が多い。

2年生以上になると、各分野に合わせたデータベースの利用方法を中心としたものとなり、教育学部では2年生の参加が大幅に増加している。

■ 図書館日誌 (2013.4～2014.3)

日付	共通・松江キャンパス（本館）	出雲キャンパス（医学図書館）
2013年 4月 4日	耐震・機能改修工事を終え、リニューアルオープン	
4月 4日	リニューアル記念古代出雲文化フォーラムに係る展示を実施（6月28日まで）	
4月22日	図書館コンシェルジュが新年度の活動を開始	
4月23日		第1回医学図書館運営会議
5月14日	第1回附属図書館運営会議	
6月 4日		講座事務担当者向け説明会（5日まで）
6月 5日	雑誌提供会（6月6日まで）	
6月 5日	学生選書ツアー	
6月14日	島根県図書館協会が設立され構成館となった。	
7月 8日	企画展示「小泉八雲のKWAIDAN－怪談－展」を開催（10月31日まで）	
8月 2日	第2回附属図書館運営会議	
8月31日		西東文庫パネル展示を開催
8月28日	目録システム講習会（雑誌コース）を開催（8月30日まで）	
9月 5日	大学図書館学生協働交流シンポジウムを開催（9月6日まで）	
10月 1日	中学生2名が職場体験（2日まで）	
10月 2日		中学生2名が職場体験（3日まで）
10月29日	蔵書リユース市開催（31日まで）	
10月30日	怪談展ギャラリートーク（第2回資料探訪セミナー）	
11月23日	附属図書館との共催により大学図書館問題研究会京都支部ワンデイセミナー開催	
12月10日	企画展示「堀尾・京極・松平－松江城下・今昔－」を開催	
12月18日	学習支援図書お薦めコーナー「ひとたなボックス」開始	
12月18日、 2014年 1月23日	ビブリオトークを開催	
1月21日		第22回島根県医療関係機関等図書館（室）懇談会（医図懇）総会（会場：出雲市立総合医療センター）
1月28日	第3回附属図書館運営会議	
2月11日	ビブリオバトルを開催	
3月10日	桑原文庫の企画展示を開催	

■ 刊行物

2013年 7月	島根大学附属図書館年報2012 A4判 28P
8月	島根大学附属図書館概要 A4判 20P
12月	島根大学附属図書館報「沁雲」第15号 A4判 16P
2014年 3月	島根大学附属図書館報「沁雲」第16号 A4判 16P
3月	学生協働交流シンポジウム（第3回）報告書
月 刊	LiMe：ライム（No.47～59）
月 刊	インフォアクセス（Vol.9, No.4～Vol.10, No.3）

■新聞・テレビ等の報道

2013年 4月 4日	附属図書館リニューアルオープン	NHKテレビ
4月 4日	同上	日本海テレビ
4月 5日	同上	読売新聞
4月 5日	同上	朝日新聞
4月 5日	同上	山陰中央新報
8月11日	小泉八雲のKWAIDAN—怪談—展	山陰中央新報
9月 6日	学生協働交流シンポジウム	山陰中央新報
9月 6日	同上	読売新聞
10月29日	蔵書リユース市	BSSテレビ
10月29日	同上	松江マープルTV
10月31日	同上	山陰中央新報
10月31日	同上	読売新聞
2014年 1月27日	島根大学附属図書館で多様な展示	文教ニュース No.2275

■人事異動

【2013（平成25）年4月1日発令】

氏名	異動後	異動前
飯田 啓子	再雇用更新 学術国際部図書情報課再雇用職員 (企画・整備Gコンテンツ担当)	学術国際部図書情報課再雇用職員 (企画・整備Gコンテンツ担当)
加本 純夫	再雇用更新 学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)	学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)
吉井 紀子	再雇用更新 学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)	学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)

【7月1日発令】

氏名	異動後	異動前
牛島 博	学術国際部図書情報課図書職員 (図書情報課長付)	学術国際部図書情報課図書職員 (医学情報G)
米田 政子	学術国際部図書情報課事務職員 (医学情報G)	学術国際部図書情報課事務職員 (情報サービスG学術情報担当)
中井 陽子	学術国際部図書情報課図書職員 (企画整備Gコンテンツ担当)	学術国際部図書情報課図書職員 (医学情報G)
飯田 啓子	学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)	学術国際部図書情報課再雇用職員 (企画整備Gコンテンツ担当)
加本 純夫	学術国際部図書情報課再雇用職員 (情報サービスG学術情報担当)	学術国際部図書情報課再雇用職員 (医学情報G)

【2014（平成26）年3月31日発令】

氏名	異動後	異動前
高木 貞治	退職 鹿児島大学附属図書館情報サービス課長 (4/1付け)	学術国際部図書情報課長
葛原 克子	定年退職	学術国際部図書情報課図書係長 (医学情報GL)
米田 政子	定年退職 学術国際部図書情報課再雇用職員 (4/1付け) (医学情報G)	学術国際部図書情報課事務職員 (医学情報G)



SHIMANE
UNIVERSITY LIBRARY
Annual Report
2013

島根大学学術情報機構
附属図書館年報2013

2014(平成26)年8月発行

発行/島根大学学術情報機構附属図書館

本館/〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL 0852-32-6083 FAX 32-6089
医学図書館/〒693-8501 出雲市塩冶町89-1 TEL 0853-20-2092 FAX 20-2095